

カナダ法会での説法

(一九九九年五月二十三日トロントに於いて)

皆さん、こんにちは！少し早めに始めましたが、食事を取ったばかりの人もいれば、まだ入場していない人もいるかもしれません。午後4時頃帰る学習者がいると聞いて、少し早めに始めました。

法会が終わる時、師父が質疑応答することは既に恒例になったようです。今日ここで言うておきますが、各地区でこのような法会がよく開かれるかもしれませんが、わたしは全ての法会に出席することができません。このことは皆さんに伝えておきます。ときに皆さんに招かれています、行けないときもあるかもしれません。なぜなら、法は既に皆さんに全て伝えたからです。ここで皆さんに回答した質問は実は、修煉さえしていけば、分かるようになります。しかし、質問を出した人の多くは、往々にして新しい学習者、或いは関に遭って長きにわたってある次元に留まっている人です。わたしが思うには、一途に修煉すれば、どんな問題でも解決され、ある時期において悟らなかつたことも将来きっと悟ることができます。皆さんが集まって今日のような法会を開いていますが、みな学習者は自発的に運営しており、修煉は皆さん自身で行なうことだからです。あらゆるこのような形式的なことに対して、わたしは一切口を挟んでいません。特に多くの学習者がわたしに会うことができなくても、わたしもあなたに責任を負わなければならないから、法を師とするようにと皆さんに教え、本を多く読み、法を多く学べば、どんな問題も解決できます。(拍手) 来た以上、やはり皆さんの質問に答えます。

まず一つの要求がありますが、在席の皆さんの中に初めて法会に参加する新しい学習者もいるかもしれません。新しい学習者に多くの聞きたい質問があると思いますが、実はあなたの聞きたい質問はみな本に書いてあります。学習者が法会を開き、私が皆さんに会うのはなかなか難しいし、時間も短いので、あなたが出した問題はきっとまだ初級のもので、法輪大法に対して全く分かっていないような質問もありますが、本を読めばあなたの問題は解決されると思います。時間が貴重なので、ここでは修煉の中でぶつかった問題しか回答することができません。また、常人社会に関心を持っている人は、常人社会の中の問題、或いは他の方面に関する問題を出すかもしれませんが、わたしが思うには、このような質問を出さないほうがいいのです。常人社会のことはわたしは一切構っていないからです。皆さんもはっきり分かっていますが、わたしはいま修煉者にだけ責任を持っており、修煉以外のことはわたしが一切構っておらず、そのような質問に答えることもできません。では、いまから質疑応答を始めたいと思います。

弟子：長期に魔難に遭って乗り越えられない学習者がいますが、問題点を指摘してあ

げたほうがいいのでしょうか、それとも本人に法を勉強して悟らせたほうがいいのでしょうか？

師：彼が進歩できない原因が目に付いたら、どうして指摘してあげないのでしょうか？ 善意で教えることは何の問題もありません。怒られるのではと恐れているのですか？ 相手の態度もちょうど修煉の機会ではありませんか？ あなたの話が彼に理解されなくても、大丈夫です。わたし達のこの常人の情も放棄しなければいけないのではないのでしょうか？ 問題点に気付いたら、本人に教えなければなりません。ある次元に長く留まって向上しない人はいますが、なかなか向上しないから、本もますます読まなくなり、精進もしないのです。それでは関や難はますます大きくなり、彼はますます動揺してしまい、結局、修煉できなくなるまで到ってしまいます。最初から最後までこのような問題が存在しています。修煉は非常に厳粛なことであり、少しでもいい加減なことをしてはいけません。その基準に達していなければ、決してその次元に入ることができません。一介の普通の常人が圓滿成就まで達し、大覚者のように神聖な者になろうとしています。この問題をはっきり認識できず、ひいては重要視していなければいけないのではありませんか？

弟子：『洪吟』の中で多くの美しい挿絵がありますが、佛の身体をまつわる円は佛位を表していると本の中で書いてありますが、佛の頭上にある円はどういう意味なのでしょう。佛の頭上或いは体の周りには一つだけではありませんが。

師：寺院或いは古代の壁画で見た佛の形象はその多くが常人の描いたものです。しかし非常に如実に画いた絵もあり、確かに大まかに佛、神の形象を表しました。これはなぜでしょうか。ご存知のように、現在の社会において絶対多数の人は現代的な思想意識の影響を受け、科学がまだ探検できていないことを信じていません。そのため、人間は自分で自分を封じ込めた状態に陥り、科学がまだ認識していない真実の状況がますます見えなくなりました。しかしこれらの超常的な現象は必ずしも現れてこないとは限りません。しかし往々にして、現れて来ても人々はそれを未確認現象、自然現象として片付け、或いは説明できないと言って、棚上げをし、それに触れたり或いは探検したりする勇氣もありません。もしそれを探検した人がいれば、自分こそ正統な科学だと思っている人々は、立ち上がってそれに反対するので、人々はますます信じる勇氣を失います。

ご存知のように、カトリック教にしろ、キリスト教にしろ、或いは佛教の全盛期のとき、全ての人々は神の存在を信じていたため、人間の神を信じない観念を破ることができ、同時に人々も簡単に宇宙の真実の体現と神の顕現を見ることができます。先に信じてはじめて、見ることができる、これは宇宙の理なのです。信じなければ信じないほど、見させないのです。実はこれは人間自身の心が正しくないから引き起こされたことです。由緒のある教会堂、特にパリの宮殿で見た絵に画かれた天国世界と神の形象は本当にその通りです。本当によく似ています。特に中国の古寺に書かれた佛の形象ですが、人間はどうしてそれを描きだすことができたのでしょうか？ なぜ佛

がこのような形象をしていると人間に知りえるのでしょうか？ その人々が皆神を信じていた時代には、多くの人にそれが見えています、中に異なる職種の人がおり、芸術家も含まれています。

今日大法を学んでいる人の中に、画家、彫刻家など多くの職業の人がいます。芸術家はそれが見えたら、かいま見た光景を画くことができます。ですから、宗教の全盛時代に多く的人是敬虔な宗教信者でありながら、芸術家でもあったため、その光景を描いたわけです。東洋の佛像ですが、ご存知のように、なぜ佛がこのような形象をしていると人間に知りえるのでしょうか？ 黄色い袈裟を着て、しかもなぜ髪の色が藍色だと分かるのでしょうか？ つまり、それが見えた人がいました。その次元にいないければ、本当の形象が顕れてきません。人々の見えた形象は、往々にしてそれぞれの次元で見えたものです。つまり、その人に天国世界が見え神も見えましたが、あなたにも神と天国世界が見えましたが、二人の見えた光景は同じではないかもしれません。つまり、人々は皆同じ次元にいないのです。在席の皆さんも思想が同じ境地にいる人はいません。宇宙の真実な状況は非常に複雑であり、粒子の大きさが異なる空間を決めており、少し違っただけで別の層の粒子になります。境地と次元の分け方は非常に複雑で、少し突破しただけで同じ境地にいらなくなります。ですから、佛の境地にいないければ、佛が見えたとき、顕れてきたのはあなたの境地で見られる顕現でしかありません。

佛の身体の後ろにある光の輪は何を意味しているのでしょうか？ 実は佛の身体の周りに非常に大きな場があります。玄関設位を説いた時、既にその生成について説きました。最初是一種の玄関の形式でした。その後、玄関が帰位した後、金剛不壊の体が体内で次第に膨れ上がり、体の大きさに従って成長していきます。最後にこの佛体、つまり皆さんの修煉によって出来上がった神体は本人の形象と同じ大きさまで成長したとき、玄関は既に体外まで成長してしまい、同時に体より少し広い範囲を覆っています。わたしはこれを佛の世界と呼んでおり、つまり彼自身の世界です。この世界の中は何でもあり、非常に豊富で、ほしいものは何でもあります。それでは皆さん考えてみてください。ほしいものが何でもあれば、そこで現れた光景はきっと言い表しようのないほど非常に偉大で、殊勝かつ雄大なのです。ミクロからマクロへ、中にもないものはありません。ですから、皆さんは見えるようになると、光輝かしく、素晴らしく非常にきれいなものが見えます。佛の彫刻の後ろにいつも船のようなものが描かれています（立っている佛像の後ろに表れている形状）、実はそれは佛位の光景を見たのです。しかし、如来の次元に到達しなければ、佛の真相を完全に見ることができず、この程度のものしか見えません。

このような場の本当の存在形式は人類が筆で描けるものではなく、人間はこのような色も持っていません。なぜならば、この世にある全ての色はみな、分子粒子で構成されているからです。人類のこの空間にある全てはみな、分子粒子で構成されており、この世の顔料の色も分子粒子で構成されていますが、その空間の顔料の色は更にミクロ的な粒子で構成されているので、その色がなく、画くこともできません。人々はそ

の光景を見て、素晴らしい、この光景は素晴らしいと一般的に思っています。それでは、佛の頭上にある光の輪は何を意味しているのでしょうか。実はそれは佛の智慧、神の智慧の象徴であり、佛や神の思想智慧から放射されたものです。わたしが言っている思想と人間が言っている脳とは別の概念です。わたしが言っている人間の思想はあなたの真体の思想を指しており、それこそあなたの思想、動機を構成する本当の源です。しかし、人間の脳はあなたの生命の全過程において人間という次元にいるときの皮袋に過ぎず、最も浅はかなものであり、思想と全く違います。しかし、人間が何かを表現しようとするとき、思想は人間の脳を通して伝え出されます。もちろん、他にも多くの佛の表現形式がありますが、非常に多いのです。

弟子：他の学習者が何かに執着しているのを見て、しばらくすると本人が自分で悟って改めるだろうといつも思っています。もし長引いてしまうと、全体の向上にマイナスな影響を及ぼすのでしょうか？

師：他の人の修煉にマイナスな影響はなく、それはその人個人の状態に過ぎません。しかし、例をあげますが、師父にその人の執着が見え、あなたに指摘してもらおうようにわざわざその執着をあなたに気付かせ、どうしてもあなたが気付くようにしますが、あなたはその人に指摘しますか。皆さんは真善忍を修めており、どこにおいても良い人にならないといけません。他人に不足があり、向上できないのを見たとき、どうして善意をもって本人に教えないのでしょうか？ もちろん異なる修煉の次元において異なる状態もあるので、学習者は修煉の過程で異なる次元での異なる現れがありますが、具体的なことは自分で判断してください。

弟子：わたしはよく夢を見ますが、時にそれは先生の悟らせなのか、過去、未来または他の空間の光景が見えたのか区別することができません。

師：夢のことについて、わたしは既に非常に明白に説きました。今まで夢のことをはっきり説明できる人はいませんでした。ですから、このことについてわたしはわざわざ皆さんに説明しました。人間には異なる神がおり、あなたの生命自体にまた異なる形象の生命体が存在しており、非常に複雑なので、だれも説明しようとしませんでした。しかし、このような光景が現れるときそれは既に夢ではなくなります。肉体の表面の意識は麻痺の状態、休憩の状態或いは座禅する時の状態に入るとき、本当にほかの空間の光景あるいは生命と接触し、しかもその状態が非常に真実である場合、それは夢ではなく、本当に接触したのです。思想の中の思想業力或いは各種の観念については、あなたが睡眠を取っているときに反映してきたいろんなものに至っては、それは主意識による行為ではないので、ほっといてください。

弟子：教育を受けていない人はどのように法輪大法に対する理解を深めるのでしょうか？ このような人も修煉によって圓滿成就できるのでしょうか？

師：教育を受けていなくても、もちろん大法を理解することができます。中国ではこ

のような例はたくさんあります。中国の多くの年配の方は子供の頃、家が貧乏で学校に通うことができなかつたので、知識があまりないのです。このような人達は修煉の過程でいささかも取り残されていないとわたしは気付きました。しかも修煉は非常に良くできています。特に修煉の過程で、大法の本を読むときその純粹で清らかな心は奇跡をもたらしています。大法に対する確固とした信念は大法の背後の内涵にいる佛、道、神まで感心させ、多くの奇跡が起きました。

例えば、読み書きのできない人は「他の人は精進し、本を読んでおり、しかも法まで暗記しています。わたしは字も読めないのに、どうやって勉強するのでしょうか」と焦っています。彼は本当に心から真念が生じたのです。多くの人はこのような状態で真面目に法を学び、次第に字が読めるようになりました。このような事例は非常に多くありました。ある学習者は字が読めなくて焦っていましたが、どうしたらいいのでしょうかと考える考えたすえに、本の上に伏せて寝てしまいました。しかしうたた寝をしているとき、本の中の全ての字がみな金色になって、全部彼の頭に飛び込んだのです。目が覚めると、一冊の本を丸々読めるようになりました。しかし、彼は今まで教育を受けたことがなく、自分の名前まで書けない人でしたが、『転法輪』にある字が全部読めるようになりました。このような現象は非常に多くありました。しかしそれを求めてはいけません。このような出来事もあるから、わたしも家に帰ってこのようにやってみるという話ではありません。それなら、目的を持った執着の心でやることとなります。その人が何かを得ようと考えておらず、本当に自分が法を得られないことに焦っているのです。心は違います。ですから、真に大法を修煉し、心を正しく扱うとき、その堅固とした心は本当に素晴らしいのです。それを見て神まであなたが素晴らしいと思うので、奇跡が起こります。

もちろん、英語版の『転法輪』にも同様な効果があります。英語だけではなく、他の言語の『転法輪』も同じです。ただ他の民族では、この法はまだ多くの人に理解されていないので、中国のような環境はまだ形成されていません。人々が大法に対してかなり深くまで理解し、修煉の環境が形成されたら、この環境は人を向上させることができます。

弟子: 信仰している宗教を放棄してからはじめて法輪大法を学ぶことができるのでしょうか。

師: 宗教のことについて、わたしは既に幾度となく説きました。あなたがどんな宗教を学んでもわたしは反対しませんが、わたしたちが宗教ではないため、わたしたちを宗教と一緒にしないでください。しかし、あなたにある道理を教えましょう。修煉は非常に厳粛なことです。宗教は修煉であり、純粹な修煉です。これも修めたい、あれも修めたいと思っていると、一体何を修めるのでしょうか？ 専一に修煉することができなければ、その法門にあって圓滿成就できません。ですから、何を修めたいのか自分で選択するようにとわたしは皆さんに教えているだけです。またあなたにこのことも教えますが、修煉は必ず専一でなければならず、専一で修煉してからやっと圓滿

成就できるのです。専一でなければ決して圓滿成就できません。このことについてこのぐらいにしましょう。

宗教のことに言及したから、ついでにもう少しお話したいと思います。在席の人の中に記者もいるかもしれませんが、記者はこのことについて以前から興味を持っています。わたしは我々が宗教ではないと言っています。今日ここで大会を開いていますが、完全に学習者が自発的に運営しています。皆さんがいつも一緒に煉功しており、皆カナダという地区の学習者で、一緒に法を学ぶときの体験を交流したいと思い、他の地区も同じで、皆それぞれの能力を發揮し、会場を借りる人もいれば、資料を用意する人もいれば、あれこれをする人がいるから、この大会を開けたのです。大法の中にはいかなる宗教の形式もありません。

宗教の場合、教会堂があり、教会堂がなければ何らかの環境や、場所、事務室を持っていますが、わたしたちはこの一切のものを持っていません。皆社会の一員であり、仕事があり、自分のやるべき事をやっていますが、ただそれ以外の時間に法を学んでおり、修煉や煉功をしているだけです。皆このようです。ですから宗教とは言えません。崇拜の形式もなく、佛教の中のような戒律もありません。他の宗教で幾つかの規定があるかもしれませんが、その規定に従わなければいけないのです。わたしたちのところでは何もありません。学びたければ来ていいし、学びたくなければ去って行っても、あなたを管理し制限しようとする人はいません。学習者の修煉に対してわたしは責任を持っていますが、それは常人のこの空間に現れないものです。どうして常人の形式に執着しなければならないのでしょうか？ 大法にはいかなる形式も持っておらず、どうしてそれが宗教だと言えるのでしょうか？ わたし達には学習者の氏名や住所を登録する名簿もありません。このようなものはありません。ただ自分が無償で皆さんの世話をしたいと思う人はおり、名前を皆さんに教え、もし煉功をしたければ連絡をください、というように皆さんのために何かをしたいと思っている人はいます。皆自発的にこのようなことをしています。しかしこれを理解できない人がおり、わたしたちを宗教だと思っています。いままで人々に認識された宗教以外は、みな邪教と思われているので、わたしたちを邪教だと思っています。「邪教」とはなんでしょうか？ わたしたちは「教」でもないのです、ましてや「邪教」ではないのです。邪教のことに皆さんもご存知だと思いますが、蓄財したり、人騙ししたり、人を操って悪いことをしたりして、正しくないことをしているので、邪なのです。しかしわたしたちは人々に心を修め、善に向かい、何かをする時まず相手のことを配慮し、どんな職場においても仕事をきちんとこなし、人々からいい人だと言われなければならないようにと教えています。わたしは皆さんにこのようにすると教えましたが、これは邪なのでしょうか？ それ以外わたしは何も教えていません。ただ更によく行い、良い人となり、更に良い人となり、常人の中の良い人より良い人になるようにと教え、最後に超常的な人となり、圓滿成就するようにと教えているだけです。

弟子：わたしはカトリック教の信者ですが、わたしのお祈りはいつも答えられている

ように感じていますが、わたしは法輪大法を修煉しながら、お祈りを放棄しなくてもいいのでしょうか？

師：わたしに言えるのはやはりいつもの話です。修煉は専一でなければならず、あなたが何を修めようとしても、わたしは構いません。修めたいものを修めればよいのです。しかし、修煉するのなら必ず専一に修煉する形を選んでください。これをしながら他のものもするようではいけません。これを言い出したのはあなたに責任を負うためです。ローマのカトリック教の教会堂にいて天国にいけると思えば、修めてもいいのです。わたしも反対しません。法輪大法の中にいて圓滿成就できると思えば修めてもいいのです。わたしの見解は他でもなくこのようなものです。人々に強制的にこれをやらせたりあれをやらせたりするいかなる形式もありません。表面上あなたをここに集めて強制的にこれをやらせても、あなたの心がここになく、やりたくなければ、何も役に立ちません。ですから、わたしは形式にこだわっていません。あなた自身がやりたいと思ってからはじめてできるものです。

しかし、ついでにこういうことをお話したいと思いますが、「あなたがやっていることが世界で最も正しいことだと思っているのですか？」と前回ある記者から質問されました。わたしは自分がやっていることは最も正しいことだと答えました。(拍手)わたしは皆さんから一銭も取っておらず、ただ皆さんに尽くしているだけであって、もちろん最も正しいことをしています。わたしも皆さんのためになるように、皆さんが本当に圓滿成就できるようにしているのです、もちろん最も正しいことをしています。しかし、ついでに皆さんに言うておきますが、わたしは何の宗教にも反対していません。特に正教ですが、カトリック教、キリスト教、ユダヤ教、佛教も含めて、わたしはこれらの宗教に反対したことはありません。その宗教の中にいて、圓滿成就することができますか？ その宗教があなたを圓滿成就させることができるのでしょうか？ これは非常に大きな問題です。自分の生命の永遠のためにこのことを考えたほうがいいと思います。本当に法輪大法を修煉すれば、わたしがあなたを圓滿成就させることができるとわたしは敢えて言えます。もし他の環境、宗教の中にいれば、その牧師或いは教主に「あなたがわたしを圓滿成就させることができますか」と聞いてください。もし彼もあなたを圓滿成就させることができれば、それを修めてもいいのです。このことについて、話はこのぐらいにします。

弟子：情と縁の間にどのような関連があるのでしょうか？ 情から抜け出すことができますが、縁から抜け出すこともできますか？

師：情と縁とは別のことであり、全く同じ概念ではありません。情について既にはつきり説きました。人間は何のために生きているのでしょうか？ 他でもなく情のためです。何を好んでいるにせよ、人間の喜怒哀楽、何かをやりたいと思ったり、何かをやりたくないと思ったり、この仕事が好きだと思ったり、あの仕事がいやだと思ったり、この人が好きだと思ったり、あの人がいやだと思ったり、この人を愛していると思ったり、あの人が嫌いだと思ったり、これがほしいと思ったり、あれがほしくない

と思ったりするなど、あなたの全ての意思はみなこの情によるものです。ですから、人間は情のために生きています。修煉したければ、この情から抜け出さなければなりません。情から抜け出すことができなければ、この情の中にいるのです。この情は常人の中でいろいろな現れ方を持っています。あなたが執着しているもの、いいと思っているものは全て放棄できない心です。

縁に至っては、例えば今日ここに入ってきた人がいますが、あなたが何の目的で来たのかにかかわらず、取材しに来たにせよ、法を学びに来たにせよ、情報を集めに来たにせよ、あるいは情報を探りにきたにせよ、ここに入ってきたら、わたしはあなたを一人の人間として見ており、ただ仕事が違うだけです。あなたがスパイであってもあなたに人間の心があるから、あなたを普通の人間として見ており、あなたの仕事を見ません。人類社会の全ての仕事はみな常人の仕事に過ぎません。ここに入ることができ、わたしの説法を聴くことができ、特に佛法を聴くことができるのは、これが縁ではありませんか？ 皆さんはこれを大切にしてください。もちろんこの縁について詳しく説明すれば、各方面のことに及びます。この縁というものは因縁関係の一種です。例えば、前世でこの人はあの人に借りを造ったり、或いは悪いことをしたりすると、来世二人はまた出合って、前世の借りを返さなければなりません。これは怨恨の縁です。もし前世にある人に利益をもたらし、その人は来世牛になっても馬になっても恩返しをしたいと思っていれば、来世牛になったり馬になったり、或いはあなたの妻や夫、或いはあなたを助ける人になるかもしれません。これも一つの縁であり、善縁と呼ばれています。大法と結んだ縁はもっと高尚な縁であるかもしれませんし、常人の中において、わたしたちは友人や親戚だったかもしれません。これらのことはみな縁を促成することができ、将来この縁を終わらせるのです。このような状況です。しかし大法を破壊しないようにと忠告しておきます。それなら最も悪い因縁を結ぶことになり、永遠にそれを返し尽くすことができず、永遠に償わなければなりません。

弟子：わたしは大きい関をうまく乗り越えることができますが、子猫、子犬、蝶々、蚊などの小さい動物を怖がっています。

師：これはつまりちょっと臆病なところがあるということです。臆病も実は一種の執着です。この種の執着は観念によって形成されたのです。例えば子供の頃から虫やそのようなものを非常に嫌っており、見るだけで汚いと思っています。それでこのような観念が次第に形成された後、触りたくもなく、近づいてもほしくありません。だんだん怖いと思うようになります。これは人間に後天的に形成されたある種の観念によってできたものであり、執着として現れてきます。この種の執着は、何をしたいかという明確な考えと意識を持っている、他の執着と異なり、つまり後天的に形成された観念の現れです。

弟子：夢の中でいつも人を救っています。法を広げ、多くの人に法を得させるべきだと悟りました。

師：これはわたしが先ほど説いたあの種の縁です。多分あなたの生命、異なる空間で結んだ縁と関係しているかもしれませんが、しかし、あなたの修煉の向上と直接かかわっていません。ひたすら法をしっかり掴んで修煉してください。どんなものに遭遇したにしても、どんなものを見たにしても、どんなものが夢の中で現れてきたにしても、確固として法に基づいてください。その全てはあなたの修煉の過程で現れてきた状態に過ぎません。あたかもある人は大きな神通力を持っていても、動こうとせず、それを使おうともしないようです。彼はその心がないと思っています。

弟子：異なる次元の佛、道、神も天象の変化によって行動しているのでしょうか？

師：非常に次元の高い、大きな神の意志は天象であり、神々の行為も天象の具体的な現れで、神々も天象を守っています。常人社会に現れてきた全てはみな偶然ではありません。人間がいくら執着しても、いくら素晴らしく計画してやろうとしても、実現できないのです。全ての民族、国家、ひいては大統領までみな非常に素晴らしく計画していますが、往々にして思う通りに行かないのです。人間はいくら考えても、何がほしいと思っても、或いは何かを恐れている、現れてくるべきものは必ず現れてきますが、そうでないものは現れてきません。全ては既に定められており、人間がただこの定めに従って彼らの義務を果たしているだけだと思います。しかし、もし全てが既に定められていれば、そのままに行なえばいいのではないかという問題があります。人間は取りも直さず人間であり、迷いの中にいるので、それを信じようとしません。ですから、人間は相変わらず努力をし、争いをし、何かをやりたいと思って、それによって業を造ってしまいます。

一生官職についており、あの世に行ったらまた役職につく人がいるのでしょうか？
ですから、多くの方は生きている間に手中の権力を利用して良い事を行ないます。命の存在は人間になるためではなく、あなたの生命も体の死亡によって死亡することもありませんので、あなたの生命は続いていくのです。ですから賢明な人、本当に智慧のある人は有利な条件を利用して、未来のために更によりよい生命環境を創るのです。つまり彼は多くの良いことを行なうのです。同時に手中の権力を利用して悪いことをする人もいます。これは人間に唯一にできることです。ある出来事が起きるとき、あなたはどのような行動を取るのか、良いことをするのか、それとも悪いことをするのか、それはあなた自身の問題です。しかしこの出来事がやはり現れてきます。ですから、人間はこの出来事の前で異なる役を演じています。

弟子：修繕の意味合いはうちに向けて探すということですが、成、住、壊は自動的に修繕するのでしょうか。

師：成、住、壊、修繕ということは皆さん個人の修煉と関係ありません。修煉はつまり自分を探し、自分の足りないところ、執着心、良くない考えを探し、どのようにしたら更によく行なえるのか、良くない考えを取り除くのか、これはうちに向けて修煉するという事です。成、住、壊は宇宙の中の規律であり、悪くなったらどのように

修繕するのか、それは法のことであり、個人の修煉とは別のことです。

弟子：圓滿成就しても、更に高い次元の理が分からないために、また過ちを起こして落ちてしまうことがありますか？

師：皆笑っていますね。あなたはいまになってまだ人間の考えで神のことを考えているのであれば、永遠に納得できず、考えようもありません。人が圓滿成就したら、その思想は完全に神としての思想となり、人間としての思想は全くありません。物事を考えるときの基点及びその思惟方式は人間のと全く違うのです。しかも環境や境地も違うので、全く違います。その次元の理が分からないということもありません。その理が分からなければ、その次元に到達することができないのです。なぜでしょうか？ 皆さんが修煉している時、なぜ多く法を読み、本をよく読むようにとわたしは言っているのでしょうか？ つまりその次元に到達すれば、その次元の理が分からなければなりません。その次元の法が分かってから、ようやくその次元に留まることができるのです。しかしあなたの人間の身体がまだ修煉しているため、必ず人間の考えが存在しており、人間の思想にそれほど多くの法理を知らせることもできないから、修煉の過程で人間の一面に法に対する認識を多く教えてはいけません。

《転法輪》の中でも、わたしは概括的に皆さんに説いているだけで、皆さんに真覚を啓かせ悟らせています。本当の法がどうして人間に知られ得るのでしょうか？ ですから、皆さんは修煉の中で、かつ然としてある状態が分かり、ある道理が分かったと感ずることしかできませんが、人間の言葉でそれをはっきり説明することができません。一旦話してしまえば、そのようなことではなくなります。しかしその道理が分かったとき、あなたは確かに既にその次元におり、ただ法理の概括的なものと僅かばかりの非常に簡潔なものだけをあなたに理解させただけです。それらの具体的な洪大な理を一遍に人に全部理解させたら、人間のこの一面も佛の境地に到達したことになる、それではいけません。なぜならば、皆さんはまだ修煉しており、まだ常人の心が残っており、それを取り除かなければならないので、人間に知らせることはできません。皆さんはそれぐらいの理しか分かることができませんが、そのぐらいの理は即ちあなたが向上したことの表現形式です。ですから、修煉して到達した次元の高さは即ち、分かっている理の高さです。皆さんが修煉してできた部分が隔離された瞬間、皆さんは既にその次元の全ての法理が分かったのです。

弟子：大波で砂を洗う時、大きな関と難に遭う時、ついて来られなくなった人がいますが、この時その人を助けたほうが良いのでしょうか、それとも自力で関を乗り越えてもらったほうが良いのでしょうか？

師：修煉はまさに大波で砂を洗うように、続けることのできない人が振るい出されてしまいます。残った光り輝くものはそれほど多くありませんが、それは本当の金であり、本当に圓滿成就できる人です。修煉は取りも直さず、厳粛なことであり、関を乗り越え、難に遭う時は決していい加減にはしてはいけません。その時あなたがどのよう

にその一步を踏み出すのか、いかに認識するかにかかっており、それは極めて重要なことです。その人の問題に気がついたら、助けることができれば助けてもいいのです。その人に教え、目覚めさせてもいいのです。もちろん、修煉の過程で定められた一つ一つの関、一つ一つの難をいかに乗り越えるか、一つ一つの心をいかに取り除くかは非常に大事なことであり、一旦そのチャンスを逃してしまえば、二度と手にすることはなかなか難しいのです。特に重要な問題において、あなたが圓滿成就できるかどうか、重大な問題に際して、それを乗り越えられなければ、あなたは本当にそういった機縁を逃してしまいます。機会がまたやってくるかもしれませんが、わたしはそれがかもしれないと言うしかありません。しかし、それは法を非常に深く学ぶことによって、しっかりした基礎を築いたため、その関をきちんと乗り越えたのであって、何かの心構えがあれば或いはこのようにすればきちんと乗り越えられるのではないかと思っただころで、できるようなことではありません。

弟子：先生に会ったり、或いは先生の説法を読んだりするとき、いつも涙がでてきますが、それを見て私がおかしいと思う人がいます。そのような人にどのように説明すればいいのでしょうか？

師：説明する必要はありません。あなたの修煉を他人に見せる必要はないからです。修煉の状態ですが、自分で自分を修め、自分が向上するということです。実は涙が出るということはわたし達の多くの学習者がこのような過程を経験し、多くの人にこのような過程がありました。ですから、この状況が現れたのはあなただけではありません。生々世々に今日法を得るのを待っている人がおり、本当に多くの苦を嘗め、様々な苦難を嘗め尽くしてやっとこの法を見つけたのです。それはどういう気持ちなのでしょう？ 人間に分かっている一面があり、分かっている一面もあります。人間のこの最も表面的な一面は迷っており、分かっているのですが、ほかの空間に存在している人間のもう一面は非常にはっきりと分かっているのです。ですから、全ての人が良いことや悪いことをしたら、当人に対する判断と報いは絶対公平なものです。そんなことは知らないと言っても、ただあなたの表面が知らないだけで、知らないという空間に落ちてきたから、知らなくなりました。しかし、まだ分かっている一面もあります。

弟子：法を弘めることに熱心な人もいれば、そうではない人もいます。それはどういうことと関係しているのでしょうか？

師：このようなことをする熱意のない人もいますが、このような人は修煉できないというわけではなく、ひいては修煉が非常に良くできている場合もあります。ただ彼にこのことをする熱意がないだけで、このような人は多くいます。

また、非常に熱心な人もおり、他人のために良いことをしたいと思っていますが、このような人も少なくありません。これはあなたの修煉、修煉できるかどうか、或いは圓滿成就できるかどうかと関係ありません。しかし、わたしが思うには、修煉者は

何をしても他人のために考えなければならないので、最も良いものを得たらそれを多くの人に教え、多くの人が済度されるようにしたいと思っています。往々にしてこのようです。しかし、自分の何かの承諾を実現させ、或いは自分の数世以前の親友との縁を探して、その人にも法を得てもらおうようにしているのかもしれない。

弟子：大法を信じない人は、将来の何時かに機会を逃したと気付くのでしょうか？

師：この機会はあるかもしれませんが、ないかもしれません。なぜならば、歴史は従来淘汰された人がどうなったのかを全く重視していないからです。しかし、よく学んでいない人、つまり精進していない人が、もし精進するようになったら、これらの人は後悔を覚え、後悔する機会があります。

弟子：長い年月の中で待っていたのは大法ですが、どうしてこれほど遅く大法を得るようにと按配されたのでしょうか？

師：多分その人を全面的に見てから決めたのだと思いますが、ほかの何かの原因も考えられます。なぜならば、この法を伝えた時、マスコミ、宣伝機関に宣伝をしてもらったことはなかったからです。わたしはずっとこの方法を取らず、このようにしなかったのです。多くの偽物、邪のものが皆広告で自分を吹聴しているため、本物まで人々に馬鹿にされてしまい、人騙しのものだと思われているので、このようなやり方は法に対して非常に厳粛ではないのです。ですから、わたし達はずっと広告で吹聴するようなやり方を取らず、できるだけ大法の厳粛さを保とうとしています。ですから、そのため法を得るのが遅くなった人もいるかもしれませんが、どうせ既に得たので、多く考えずに安心して修煉してください。

昔、古人に「朝（あした）に道を聞かば、夕（ゆうべ）に死すとも可なり」という言葉がありますが、法を既に得た以上、まだ何を恐れるのでしょうか？ どのように修煉していくかということが大事です。実はまだ縁のある多くの人には法を得ていないのです。無責任で、わたし達の実情を良く分かっていない宣伝媒体が、わたし達を誹謗中傷するとき、このような人達はそのため機縁を失うかも知れません。これは最も惜しいことです！しかも今日の人類社会はここまで腐敗墮落したのです。記者は自分の観念と想像に基づいて勝手に評論したり脚色したりしますが、本当にそれを調べようとせず、自分が後天に学んだもの、認識したものが真理だと思っていますから、あえてこのようにしています。現在、本当に多くの縁のある人、ひいては非常に縁の深い人はまだ法を得ていません。

弟子：大法を学ぶ前、わたしは同性愛者でしたが、色魔という問題に対してまだはっきりと認識していません。どのようにこの問題を解決するのでしょうか？

師：私が思うには、あなたがもしこの問題を解決するために、大法を学んだのであれば、解決されないかもしれません。なぜならば、法は非常に厳粛なもので、人を圓滿成就させるためのものであり、常人のために常人の何かの問題を解決するために伝え

るものではないからです。しかし逆から言えば、もし確固として大法を修煉することができ、今からどんなことをしても、本当に修煉者としての基準、煉功者としての基準を自分に要求し、正々堂々と修煉すれば、この関はすぐ過ぎてしまうと思います。

(拍手) 実は多くの人が関を乗り越えられない時、皆さんがずるずるとして人間のことを放棄できなかったため、関は長引いたのです。もし本当に執着を断ち切り、自分の歩みたい道を歩めば、全ては変わります。特に法を学ぶことを妨害しているこのようなことは非常に早く変わってしまうのです。

弟子：弟子達が先生に敬意を表す時のやり方に、人情的なもの、形式的なものが多いようです。

師：このことは私にも分かっています。しかし、以前皆さんからもこれらのことを聞かれたことがあります。わたしは既に皆さんに回答しました。わたしは形式を重んじていませんが、今日のような法会、或いは集団煉功などの場合、そのような形式がなければ、修煉者が一緒にいる時に生じる和やかな場は形成されません。また修煉者同士が話しているのは皆高尚な認識ですが、このような環境も形成されません。それに対して、常人社会の中で人間と人間の間で話しているのは皆個人の利益に関することです。数千年来、人々は絶えず同じようなことを話しており、ただ現代化された言葉が加えられているだけです。修煉者として備わるべき環境がなければ、皆さんの修煉、皆さんの圓滿成就と精進に大きな困難をきたします。まさにある学習者の今日の発表のように、わり合い頭が良いと自分が思っているから、家で二ヶ月勉強して既によくできたと彼は思っています。しかし、その環境の中に入ると、そうではないと気がつきました。この環境があるから、お互い促進し合い、向上することができますが、これは非常に素晴らしいことです！この世で既に浄土を見つけられなくなりました。宗教のところに行っても、彼らが今話しているのもお金と政治、甚だしい場合色情のものまで宗教に混じっています。わたし達法輪大法のところだけは絶対きれいな浄土です！（拍手）

どうして一億の人がこの功を学んでいるのかと不可解に思う記者はいます。先ほどのわたしの話は皆さんへの回答です。ここはこの世に残った唯一の浄土です。ここは人々の道徳が高尚になり、人々がよくなり、既に非常に悪くなった人が再び最高な状態に帰するようになることができます。大法以外、今これができるところはまだあるのでしょうか？ わたし達のところではできるので、多くの人はやってきました。

弟子：以前化学療法を行なうために体内に人工造血装置が入れられましたが、それを取り出す必要があるのでしょうか？

師：以前どんな手術を行なったにしても、何かをしたにしても、もうこれ以上構わないでください。本当に修煉する人になれば、どんなことでも起こり得るのです。以前、ある修煉者は足に鉄鋼の釘、鋼板が入れられ、骨が取り替えられ、ほかの身体の部分まで取替えられましたが、そのうちいつの間にか無くなりましたが、体に何の障りも

ありませんでした。(拍手)しかし、わたしは常人のためにこれらのことをしに来たのではなく、修煉者が圓滿成就できるために行なったのです。いかなる求める心を抱いても、何も得られません。

弟子：法輪大法を学んだ後、体内のエネルギー流はますます強くなり、今磁力で物を引きつけることができますが、同時に日差しからエネルギーを吸収する必要があります。

師：あなたに教えますが、最初は良いことだったのですが、その後あなたはこのことに執着し始め、執着心が生じました。このような機能があって、非常に良いことだと思っ、あなたはこの機能に執着していますが、修煉の目的、圓滿成就する自体はあなたにとって、機能を得ることより重要ではなくなりました。それなら、その作用が無くなり、ひいてはこの機能まで無くなります。日差しを収集したり、ほかのエネルギーを収集したりすることによって、あなたを補充することができるとあなたは思っています。しかし、機能がますます弱まっていくとあなたは気付きますが、そのような補充は実は微々たるものです。

わたしは《転法輪》《洪吟》の中で、既に皆さんに「機能は小手先の技である」とはっきり教えました、それが修煉中の副産物であり、くれぐれも機能を修煉の目標としてはいけません。さもないければ、あなたは永遠に圓滿成就できません。このことに対する執着を形成してしまうと、自分の圓滿成就という道のりに壁を立て、それを乗り越えることができなくなります。常人の心からの全ての執着を放棄してはじめて、乗り越えることができ、圓滿成就に向かっていきます。在席の皆さんの多くは、わたしが簡単に何かをすれば、神通力が大いに現れてきます。しかしわたしにはそれができません。わたしは皆さんを圓滿成就させなければならぬからです。修煉の中で、機能が自然に現れたら、それを重く見ないほうが良いと思います。気に留めないほうが良いのですが、あればあったで、特に気にすることもありません。佛、神に比べたら、それは何ものでもありません。それはあなたが追求している目標ではありません。あなたが追求している目標は更に高く大きなもので、圓滿成就に至るものです。その時は神通が大いに現れ、できないことは何一つもありません。もしあなたが本当に法に対して堅い決意を持つことができるようになり、わたしが言った通りにすることができれば、あなたのこの機能はますます強くなるかもしれません。なぜならば、修煉の中で全ての機能はみな、エネルギーによって強化されるはずで、あなたはこの話を聞いてこの両面の関係を理解したと思います。

弟子：修煉の過程で、本源ほど高い境地に到達していない時に、本源物質が変化するのでしょうか？

師：あなたは実は法をよく学んでいません。あなたの生命、あなたの生命を造成した最もミクロ的なところからあなたを変えている、とわたしは言っています。それでは、あなたの生命の最もミクロ的なものはどこにあるのでしょうか？それはわたしが皆

さんに教えていません。非常にミクロ的であるかもしれませんが、そうではないかもしれませんが。この話の本来の意味は、あなたの最も表面的な部分がまだ本源ほど高い境地に到達していないというのは、皆さんの全てが本源という境地に到達していないのではなく、わたしは逆の方向から皆さんを修めさせているという意味です。

ご存知のように、昔中国というところで、修煉のことを言うと、多くの地区の人々はそれを理解することができます。通常人間が修煉するとき、表面から変化が起こるのです。分子という粒子で構成された体から変化し始め、それから分子につぐ第二層の粒子は変化し、絶えずミクロ的な粒子に向かって変化していき、絶えずこのように変化していきますが、彼らの修煉の道はこのようなものです。ですから、一旦修煉すると、彼は非常に短い期間内に、神通力を大いに現すことができ、表面上完全に別の様子になってしまう。しかし、皆さん考えてみてください。今日わたしが伝えたこの法は、常人社会で伝えており、修煉者が常人社会にいながら常人社会を妨害しないようにすると同時に、常人社会がまた皆さんに修煉の環境を提供することができるようになるには、常人社会という環境を破壊してはいけません。ですから、皆さんの現れは常人と同じようになり、仕事があり、社会の中のことをしなければなりません。常人社会の人々はあなたに修煉の機会を提供し、トラブルや苦痛をもたらしますが、あなたはそこから向上し、業を滅するのです。一つ一つの関をきちんと乗り越え、あなたは昇華していくはずですが、わたし達の環境は破壊してはいけないものです。

この環境を破壊しないからこそ、皆さんがここで修煉することができるようになります。それでは皆さんはこの環境に適応する修煉方式で修煉しなければならず、表面上の変化がミクロ的なところの変化より激しくないようにしなければなりません。以前は表面から人を変えていましたが、わたしは今日、あなたの生命の最もミクロ的なところからあなたを変えています。しかし、皆さんに教えますが、今までこのようにする人はいませんでした。今日の人間は非常に高い次元から来た人もいます。あなたを済度する人もそれほど高くないのに、どうしてあなたの本源を変えることができるのでしょうか？ これを話したら、皆さんがお分かりになったと思います。つまり、今までこのようなことをした人はいませんでした。わたしは今日このようにしています。その本源のあなたこそ、本当のあなたです。あなたの念、考え、何かをしようという動機の源もそこにあり、そここそ本当のあなたです。しかし、常人の中の言語、思惟形式に現れてくると、ただ一層一層にここまで伝達してきて、異なる次元を通過したから、異なる次元と異なる境地の観念が加えられ、最終的に人間のところで、言語、思惟と行為として現れてきます。

最もミクロ的なものが本当のあなたなので、わたしはまさに最もミクロ的なところからあなたを変えています。しかし、表面では全然変化がないというわけではありませんが、なんといたってあなたも修煉者であり、常人とは違いがあるので、わたしはあなたの修煉に影響するもの、絶対多数の良くないものを取り除き、ひいてはあなたの修煉に影響する病まで除去します。「法輪功は本当に不思議で、修煉すると、病氣

はすぐ直ります」と言った人はいます。そうです。本当に修煉する人は始めからすぐ変わり、病気がすぐ取り除かれてしまいます。もし病気の除去のために来た人なら、取り除かれることはできません。なぜならば、わたしは常人のためにこれらのことをしに来たのではなく、修煉者が圓滿成就できるようにしています。

弟子：性愛のエネルギーは精神のエネルギーに転化することができるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、それにはエネルギーはなく、ただの情と人間の熱量だけです。情に執着し過ぎていて、人体の本能も加わって一種の興奮が生じました。しかし、医学専門の人なら分かりますが、この興奮状態に達するには、熱量という物質が必要です。熱量が消耗されたら、おとなしくなり疲れてしまいます。ですから、若者は精力が多過ぎて使い道がないので、歩いている時に飛び上がったりしていますが、つまり熱量が多過ぎるのです。ですから、それはエネルギーではなく、くれぐれもこれをエネルギーとは思わないでください。

弟子：わたし達が宇宙の真理に溶け込んだ時に、どういった形式で存在するのでしょうか？

師：わたしはあなたにこのようなことを教えたことはありません。あなたは多分ほかの気功、特に道家の気功からこれらのことを聞いたかもしれませぬ。どこでもどんなことでも、ひいては一念であっても、法の要求と一致しなければならず、これは即ち圓滿成就後の生命です。多くの人は佛に形象がないと言っていますが、これは中国佛教の禅宗の理論であり、佛も無く、形象も無いと言っています。ですから、法が六代までですが、その後説くことのできるものもないと、達磨自身は言っています。中国古代において、文化大革命以前の佛教も、禅宗が牛の角に首を突っ込んでおり、その時宗教界もずっと禅宗と議論していたのです。実は禅宗は宋の時代以降、つまり中国の一千年前に既に存在しなくなりました。しかし、達磨の講じた理が常人の哲学に非常に近いと後人は思っており、一部の人がそれを哲学、最高の哲学として見えています。一部の人気が狂ったかのように、あたかも哲理の本源を悟ったかのようにです。実は、それは非常に次元の低い認識であり、低いから常人が受け入れやすかったのです。

佛には形象があります。佛の身体が更にミクロ的な粒子で構成されているため、その体も物質によって構成されていますが、人間の目には見えません。しかし、見えなからといって、存在しないとは限りません。人間に見えるのは可視光線であり、全部のスペクトルの中で、人間が見えるのはごく少ない部分です。しかも、人間が見えた全ては光が照射したから見たのであって、可視光線が照射しなければ、あなたは見えませんが、それでそのものが存在しないと言えますか？ 現在、アメリカに多くの大きな天文望遠鏡があり、多くの天体を発見しましたが、x線、γ線、赤外線、紫外線など可視光線以外の光で見え、このような状態下でやっとな観察できますが、それらのものが存在しないと言えるのでしょうか？ もしこの望遠鏡が発明されていな

い時に、それらの天体が存在していると言え、頑なな人はそれが迷信だと言うのではありませんか？ つまり、わたし達は今日佛の世界、佛が見えたと言っていますが、どうしてもそれを信じない人がいます。なぜならば、あなたの目は原子ではなく、分子で構成されているから、原子の粒子で構成された全てのものが見えないのです。しかし、佛の身体は原子で構成されているので、あなたにどうして見えるのでしょうか？ つまり彼らはあなたの可視光線の範囲にいないからなのです。

弟子：地球上の生命は全部終わるのでしょうか、それともある時に変化があるのでしょうか？

師：これはわたしが説かない問題であり、ここではわたしは説きません。あるかどうか、わたしの考えでは、それを構わないほうがいいと思います。なぜでしょうか？ 皆さん考えてみてください。宇宙の中の全てはみな、偶然に存在しているのではなく、ただ人間は神の存在を信じていないだけで、神はあらゆるところに存在しており、宇宙の全てに分布しています。人間は何でも敢えてやっしまい、人間の道徳は既に最低の最低まで腐敗墮落しました。皆さん考えてみてください。現在の人間は思うままに行動しており、恣意に人を殺し、銃を持っていれば人まで殺し、思想観念に歯止めを掛けられるものはありません。人間の道徳が腐敗したから、どんなことでも敢えてやっしまいます。多くの人々は人類がここまで腐敗墮落し、各地にこれほど多くの災難が現れていると言っています。人間が悪ければ悪いほど、災難が多くなります。

しかし、逆から言えば、今一億人が大法を学んでいます。どのぐらいの人が圓滿成就できるかということをして置いて、少なくともこれらの人は良い人になりました。もしこの全てが終わってしまえば、これらの良い人はどうなるのでしょうか？ 特に今皆さんは修煉しており、確固として修煉していますが、これらの立派なよい人はどうなるのでしょうか？ ですから皆さんに教えますが、修煉さえすれば、ほかのことを考える必要はまったくありません。難があるかどうかを構わないでください。あってもあなたと関係ありません。(拍手) しかし、悪い人は免れることができません。

弟子：ある種の人、それ自身が携帯したものと本人の忍耐力に定まりがあるので、高い次元まで修煉できないと師父はおっしゃいました。

師：人類社会の中で、現在の人間の中で、どんな次元から来た人もいます。低い次元から来た人もいますが、このような人は高い次元まで修煉できないかもしれません。しかし、三界を出て圓滿成就するのは問題ありませんが、次元が高いかどうかの問題です。人間はもし法の中で修め、法を得ることができれば、それも容易いことではありません。今回が生命の位置を配置し直しているのです、自分自身が携帯したものが少ない場合、それを補充することができます。しかし、法を得る資格がない人もおり、また全く法を得られない人もいます。

弟子：大法の威力が全てを変えることができると思っていますが、大法はどうしてそ

のような人を変えることができないのでしょうか？

師：一般的な佛、例えば阿弥陀佛、釈迦牟尼佛、イエス、聖マリアなどの如来は手を振るだけで、人類社会の全てが変わります。どうして変わらないのでしょうか？ どうして如来はこのようにしないのでしょうか？ 人間自身が悪いことをし、どうしてもこのように行い、人間自身がこのようにしたからです。わたしが手を振ればあなたの業力を取り除き、よくないものが無くなりますが、あなたは引き続き悪いことをし、業を作っているのなら、どうしてあなたのためにしなければならぬのでしょうか？ 人を救うには、このようではいけません。人間に道理を分からせ、その人の心から自ら自分を変えさせることは本当に人を救うことです。如来さえこれほど大きな力量がある以上、宇宙大法が一人の人間を変えるのはあまりに簡単なことです。この間例を挙げましたが、それはまだ非常に小さい例ですが、まさに溶かした鉄に木の屑が落ちたら、瞬時に無くなり、全く見えなくなります。これほど大きな法の中で、人間はまさにその木の屑のようです。どうしてわたしはあなたに修煉をさせているのでしょうか？ もし本当に大法をもってあなたを造り直し、あなたを修煉させなければ、生命のミクロから表面まで、将来、永遠にあなたではなくなります。あなたの一切の記憶、思想、存在方式まで変わり、自分が誰なのかも分かりませんが、それは再び作り直すということです。それは非常に恐ろしいことで、人を済度するというものではありません。どうして人を済度するのでしょうか？ 法にはこの力が無いのではなく、法は人間に一つの機会をもたらしているのです。

弟子：どのように修煉の中の魔難に対処するのでしょうか？ 先生もわたしたちが修煉のときに遭った魔難を経験したのでしょうか？

師：新しい学習者から出された質問です。わたしは従来わたし個人のことを話したくありません。しかし一つだけ皆さんに教えますが、皆さんは修煉の人ですが、わたしは違います。皆さんは皆、修煉者の基準に基づいて行なわなければならない、誰一人例外な人はいなく、皆、圓滿成就の境地と基準に到達しなければなりません。しかし、わたしは皆さんと違って、わたしは皆さんにこの法を教えにきたのです。わたしが受けている難は各次元の衆生の難であり、わたしが遭ったことは誰にも教えることができず、皆さんはそれを理解することができません。修煉が非常に簡単だと皆さんは思っていますが、皆さんに教えますが、皆さんが修煉できるように、わたしは皆さんの半分の業力を減しました。実は考えてみてください。この宇宙において今まであなたがやった悪いことは、あなたが修煉したからといって、追及せずに済ませていいのでしょうか？ イエスがなぜ十字架に磔にされたのか、ということの理由がわたしにわかっていると以前話したことがあります。彼の父親のエホバは彼を解脱させることができなかつたのでしょうか？ 彼自身の力が自分を解脱せず、どうしても十字架に磔にされなければならなかつたのでしょうか？ これらのことは皆さんが想像できることではなく、人を済度することは非常に難しいことなのです。一部の人は常人として生々世々に悪いことをしたため作った業を持っていますが、この借りは永遠に人間

を縛り付けており、生々世々にそれを解くことができません。それに対し、一部の人は異なる次元から落ちた時に異なる次元の借り、異なる次元の神に借りを作ったのであって、どのように返すのでしょうか？ ですから、人を済度することはさほど簡単なことではありません。圓滿成就したら人を済度すると宗教をやっている人は言っていますが、それは執着心です。あなたにどのように人を縛りつけている縦横に交差している、人を済度しようとする人の次元より高く、広い怨恨の網を解けるのでしょうか？ 人を済度することはそれほど簡単なことなのでしょうか？ このことについてはこのぐらいにしましょう。

弟子：どのようにして先生を偶像化しないようにするのでしょうか？

師：わたしは学習者の気持ちを非常に理解しています。わたしが皆さんを業力に満ちた常人から修煉の人に変え、皆さんに何を与えたのか、皆さんの何を取り除いたのか、皆さんははっきりと分かっており、その感謝の気持ちはわたしには非常に分かっています。ですから、師父に対して形式上で尊敬を表したい人はいます。尊敬することをさせないようなことはできませんが、なぜならば、なんと言ってもわたしが皆さんの師父だから、わたしを尊敬すべきです。しかし、わたしは形式上のことを重んじません。一部の学習者は多くの学習者のように認識がまだ高まっておらず、師父を尊敬しなければ、師父に申し訳ないと思っていますが、実は間違っています。しかしわたしはこの道理を話したことがあります。佛を拝み、多くの廟を立てれば、成佛できると思う人がいますが、それは笑い話です。釈迦牟尼は、有為の法が幻のような水泡だと言いました。それは有為のことであり、何でもありませんが、ただ常人の徳を少しばかり積んだに過ぎません。その廟は本当に佛のために立てられたと思っているのでしょうか？ あなたが廟を立てたら、佛は必ず来るのでしょうか？ そこで廟を立てたから、佛が必ず来ると思っていますが、佛に来るようと命令したら、佛は来なければならぬのでしょうか？ このようなことではありません。また佛に叩頭をしたから、佛は必ずわたしの安全を加護し、圓滿成就させてくれなければならないと思っています。佛を尊敬したからといって、佛は常人の心のように、お世辞を言われたら喜んでしまうのでしょうか？ 佛は常人のように、毎日お世辞を言われたら、あなたを昇進させ昇給させるのでしょうか？ 人間は佛を人間化してしまい、人間の情を持って佛を考えていますが、全くそのようなことではありません。ですから、わたしにこのようにあのようにわたしに対処してくださいと皆さんには教えませんでした。しかし、ある地区の学習者はそのような民族習慣があって、このようにしたほうが良いと思っています。それも彼の間違いではありませんが、ただ大法は形式に拘っていません。

このことについて、わたしは数回にわたって話したことがあります。どのように対処するのでしょうか？ 皆自分で自分の心に基づいて行動しています。しかし、わたし達の今日の法会の場合、この形式を採らなければなりません。皆さんは一緒に修煉しており、この場に入ると皆、非常に和やかになったと思っています。心の中でよく

ないことを考える人はおらず、発したのが皆、慈悲で良いエネルギーです。皆さんが話したのは全部修煉に関わることで、どのようにしてよりよく行なえるのかなどのことです。この環境はなくてはいけないものです。体験を話し合うことによって、お互いの差を見つけ、他の人も精進できるようにしていますが、これは非常に良い形式です。しかも、この形式はまた、皆自発的に運営したのであって、お金を出し劇場を借りた人もいれば、資料を印刷した人もおり、他のことにお金を出した人もいますが、皆このようにしています。補導站は一銭も蓄えず、実際担当した人が自分でそれをやり遂げ、全部終わってから、補導站到に手続きを渡し、それで終わりです。往々にしてこのようです。

ある新聞で見た記事ですが、李洪志はお金が要らないのですが、彼の弟子はニューヨークで法会を開いたとき、三万五千ドルで会場を借りたとのこと。その気持ちは非常に素晴らしいのです。偉大な法のため、神聖な法会のために、このようにしたのであって、彼の心の中で、最も良い会場だけが大法に適していると思っていました。人類は大金を払ってでたらめなことをしてもいいのですが、神聖かつ偉大な法会のためにどうして良い会場を借りてはいけないのでしょうか？ しかし、皆さんもこのことに気をつけてください。今後、できるだけあまりに高い会場を借りないでください。今後気をつけてください。三万五千ドルはアメリカではそれほど高額ではないようですが、中国だったらそれが数十万元になります。しかし、わたしは一銭も見たことがなく、このお金を全く見たことがありません。ただ学習者は三万五千ドルの小切手で会場を借りてから、会場を三万五千ドルで借りたが、この日に使う予定だと補導站到に一言を言って、それで終わりです。確かに三万五千ドルを使いました。それは学習者の気持ちで、大法に対する真心です！

記者もこちらにいますので、ついでに皆さんに言うておきますが、李洪志が百万長者ではないかと言っている人はいますが、私を百万長者、億万長者、千億万長者と思ってもいいのです！ なぜならば、わたしが持っているものは人類の全ての財産でも換えられないものだからです！（長時間の拍手）

実は、別の角度から言えば、わたしにはお金があるかどうかということは、問題になりません。お金があるとされても、わたしは気にしません。例えば、一億の学習者が法を学んでいます、もし皆一ドルをくださいと今話したら、皆さん考えてみてください、皆一ドルずつくれれば、わたしは即ち億万長者になりますが、しかも皆さんはいつでもそれをくれるのです。あなたはわたしを億万長者と思ってもいいのです！ また本の販売からいくら儲かったのか、とあちこちでわたしを調べている人がいます。皆さんに教えますが、わたしが中国で正規の出版社を通じて出版した本の原稿料は、一回数千元ぐらいい、全部合わせて二万元ぐらいい、換算すると数千ドルぐらいいをもらいました。このぐらいいでした。中国の出版社は政府が経営しているので、他の国の出版社のように原稿料を支払わないのです。このような状況です。他の地区で本を出版する場合、契約を結んだら、著者に5%、6%、7%、最も多い場合は8%の原稿料が支払われます。しかし、わたしが受け取った原稿料は非常に少なかったの

ですが、ほぼこのお金で生活しています。皆さんに教えますが、このことに執着する必要はなく、調査しても意味はありません。わたしは苦勞してお金を稼ぐ必要があるのでしょうか？ 皆それぞれ十ドルをくださいと言え、わたしは十億の金持ちになります！ これはなんと痛快なことでしょう！ しかも皆さんが喜んでお金をくれるし、私も正々堂々とお金をもらうことができますが、わたしはわざわざ手間をかける必要があるのでしょうか？ ですから、時に人間の動機が不純であり、偏狭に物事を考えており、非常に馬鹿馬鹿しいのです。

弟子：先生はわたし達の業力を移動しましたが、その業力はどこへ行ったのでしょうか？

師：わたしはそれを消してあげました。（拍手）人を済度することは非常に難しいことです。ある法会でこのことを話したことがあると思いますが、ある人はもし、一生の何時かに脳血栓にかかると運命付けられたら、それが彼の業力による応報であるため、必ず脳血栓にかかります。しかし、彼は大法を学んだら（大法を学んだからといって、業を返さなくてもいいということではありません。それではいけません）、わたしは彼が楽にそれに耐えられるように、多くの業力を滅してあげましたが、その状態はやはり現れます。彼はある日、急に倒れ、現れたのは脳血栓の症状です。しかし、彼らは自分を煉功者として見なしませんでした。それにしても、なんととっても業は既に滅されてしまったから、それほどひどくならなかったのです。もし自分を煉功者で見なすことができれば、頑張っ立ち上がれば、すぐ何のこともなくなります、このような関でした。しかし、彼はこの関を乗り越えず、関は既に小さくなりましたがやはり乗り越えられませんでした。しかし、なんとと言っても関が小さくなったから、彼は三日後にベッドから離れることができ、一週間後に歩けるようになり、一ヵ月後に何もなかったように完治しました。脳血栓にかかって、病院で治療してもらってもこれほど早く回復することはありません。彼はかえって、どうして法輪功を学んだのに、また脳血栓にかかったのかと言っています。それはわたしが法を伝えた当初のことなので、人を済度するのが確かに難しいと当時思いました。わたしが彼のために難を受けた時、一杯の毒薬を飲まされたと言った彼は知らなかったのです。（拍手）

弟子：情は観念を通じて作用をしていますが、現代の変異した人間の変異した観念は情を濫用しています。

師：変異した観念が情を濫用しているのではなく、人間は何も信ぜず、如何なる道徳上の束縛もなくなりました。ご存知のように、昔は宗教があり、少なくとも悪いことをしたら将来罰に当たると人々は分かっていました。しかし、現在の人、特に若者は罰があるなんて、どこに神があるのかと、それを馬鹿にしています。それを信ぜず、神の存在も信じません。皆さん考えてみてください。悪いことをしたら神に見られ、悪いことをしたら将来応報が来ると知らなければ、如何なる束縛も無くなり、その人は何でもやってしまうのではないのでしょうか？ 殺人、放火など、悪事の限りを尽く

しています。

なぜ古人や昔の人間の道徳は高尚なものなののでしょうか？ 実は人間は非常に低能で、彼らの道徳が本当に高尚だったのではなく、悪いことをしたら悪報、良いことをしたら良い報いがあり、人間が善良でなければならないと分かっていたからです。現在においてこの束縛が無くなり、教会堂に行くのをモダンな行動だと思い、寺院に行くことを、財を求め、後継ぎを求め、加護や災難の消去のための行動と思っており、本当に信じているのではありません。皆さん考えてみてください、今日のような社会は完全に道徳によって制約されなくなっているのです、人間は敢えて何でもやってしまうのではないのでしょうか？ このような人間はひたすら自我の個性を強調し、やりたい放題に行動しています。本人たちはやりたい放題にやっており、それが良いことだと思っていますが、神はそれを良くないと思っています。忘れてはいけないのは、あなたが神によって作られたのであって、神はあなたがよくないと思ったら、あなたを見捨て、あなたを消滅させるのです。

弟子：今まで宇宙の衆生は宇宙の法を知らなかったのですが、修煉して圓滿成就できる弟子をも含む未来の宇宙の衆生は自分の次元における宇宙の一切の法理を知ることができるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、皆さんが知っており、理解しているのは、皆さんが本を読んで法に則って理解したものと同じであり、皆さんが知っているのは宇宙大法があなたに悟らせたその部分であり、本当の法は皆さんに知らせることができません。人類だけではなく、宇宙にいる全ての生命にも法の具体的な存在形式を知らせることができません。わたしはただ常人の言葉、常人の思惟形式で皆さんにこの道理を概括的に教えただけです。法の本当の存在方式に関して、皆さんはそれを知ることができません。多分皆さんの思想意識の中でこのような意識があり、将来宇宙に法があると知っていますが、その具体的なことを皆さんは知る術はありません。なぜならば、異なる次元、異なる境地にいる生命には異なる境地の状態があり、その生命はその次元において神ですが、彼より次元をはるかに超えた神は振り返ってみれば、彼をも常人と見なしています。基準は上に行けば行くほど高くなります。

弟子：純粹で清らかな心で《転法輪》を通読し、トラブルに遭えば内に向けて探し、正々堂々と修煉していれば、勇猛邁進して修煉することになるのでしょうか？

師：これは既に精進していることの現れです。もしこれができれば既に精進していることの現れです。圓滿成就に到達しようと思えば、更に関を乗り越えることがあります。学習者の法に対する理解は既に非常に深まっているとわたしには分かっています。わたしはモニターで皆さんの発表を見ましたが、学習者が皆成長したと思います。確かにそうです。国内の学習者はかなりの成長を遂げましたが、彼らは数年前から既に精進しているからです。現在海外の多くの学習者もますます成長し、法に則って法について語ることができ、これは非常に素晴らしいことです。

弟子：わたし達は宗教ではありませんが、未来の人類はわたし達を宗教と見なしますが、法を広めるとき、どのように人々にこの印象を与えないようにするのでしょうか？

師：各地の状況は違いますので、法を広める時に確かにこのことに気をつけるべきです。他の人に法を得させ、縁があるが法を得ていない人に法を得てもらうために、社会で特にこの方面のことに気をつけるべきです。人々にわたし達が宗教であるかのような印象を与えないでください。しかし、近代の白人が、人々が何かを練習し、やっていると、すぐそれを宗教だと言っていることにわたしは気付きました。彼らは宗教の概念に関して基準がありません。

弟子：修煉して圓滿成就したときの次元は実はその人が乗り越えた生死の関に直接関係しています。

師：このことに関して、この間のオーストラリア法会で既に説きました。実は皆さんの修煉は、修煉者が最後の一步まで歩んだとき、その人が圓滿成就できるかどうかを判断するものではありません。この人の修煉の過程で、ほぼできた時、彼に対して圓滿成就できるかどうかの試練を始めるのですが、したがって極めて重要なのです。修煉者でさえあれば、誰でもこのことにぶつかりますが、しかもこの関は一人の人間にとって、あたかも生死の試練のようです。もちろん、誰かに殺されるとか、あなたに何かのことはするというようなことは誰でもぶつかるとは限りませんが、必ずそうなるとは限りません。わたしがあげた例のようですが、自分の将来、仕事や事業を肝心な時に放下することができれば、その人はこの関を乗り越えたのではありませんか？人間は何のために生きているのでしょうか？ 常人の中で洋々たる前途を持ち、自分が満足できる仕事ないし自分の理想をあるところまで果たすためなのではありませんか？ もしこの全てが彼の目の前にあり、本当にこれらのことが脅かされた時に、そこから抜け出すことができるかどうか、もし本当に抜け出すことができれば、この生死の関を乗り越えたのではありませんか？ 人間はこのために生きているのではありませんか？ その人はこれまで放棄できる時、つまり生死を放棄することができたのではありませんか？

人間は肝心な時に生死を放棄し、失いたくないいわゆる幸せを放下し、その一步を踏み出すことができるかどうか、その心を放下することができるかどうか、それはあなたのために設けた関ではありませんか？ わたしは幾度となく言っていますが、如何なる偶然もありません。どうして他の人はその一步を踏み出すことができるのでしょうか？ どうしてあなたにはできないのでしょうか？ あなたはまだ自分が正しいと思って、他人を説得しているのです。

弟子：観念は業力のために存在していますが、業力が無くなれば、観念も無くなるという言い方は正しいのでしょうか？

師：観念と業力は次のような関係にあります：人間が生まれたときに、思想は純粋で清らかで、後天的に形成された固定観念は何一つありません。これが良い、あれが良くない、このことはこうすべきだと人間は思っていますが、次第に人間の観念が形成されつつあります。特に子供をしつけるときに、どのように自分や利益を守り、他人をやっつけるかを教え、意識的に子供に悪人の振舞いを教えており、それを良い手段だと思っています。普通の成人として、もしこれらの観念が無ければ、あなたは最も理性的な人間です。何でもはっきりと分かっており、何でも知っています。どんな問題を量っても如何なる観念にも陥ることがなく、出会ったこと、ぶつかったこと、見た全ても一目瞭然です。それこそ本当の自分であり、智慧です。

人間が何かの問題にぶつかった時、どのように解決するか、どのように考えるかを知っていますが、それは常人の言っている小利口であり、智慧ではありません。後天的に形成された各種の観念によって、あなたが更にずる賢くなり、私利を守るようになりますが、これで悪事を働き、業を造るようになります。あなたが自分の利益を守るために、これらの観念を形成したので、これらの観念は悪事を働く時に、業力が生じます。あなたの行動はこれらの観念によって振り回され、何かをするときに、業力が生じることがあります。しかし、業力は観念ではありません。自分の暮らしが悪くないと思う人もいれば、自分が賢く、腕前があると思う人もいます。他人と苦しく争い闘うことによって、僅かばかりの利益を得たのですが、わたしから見れば、彼が非常に苦しく、何のために生きているのかを知らないのです。自分は頭が良いと思い、何かをやるようとしている時、それは自分の思想がそう思っているかと思っていますが、実は彼の観念は彼を制御しており、彼には自分の本性はないのです。現在の社会で生きている絶対多数の人はこの状態であり、本当の自分で生きている人はどこにいますか？人間はこのようであり、そこから抜け出すことができないため、観念は必然的に形成されますが、ただ多いか少ないかの違いがあるだけです。

弟子：異なる次元にいる人間はその本質、由来が極めて違いますが、低い次元から降りてきた人間には高い次元から来た生命の本源物質が備わっていないのでしょうか？

師：人間は皆、人間という境地の中にいますが、その源が違います。ですから、更に高い境地にある彼の生命の本源を構成した更にミクロ的な粒子が備わっていない人はいますが、つまり生命を造成する最も基本的な粒子が違います。境地がそれほど高くなく、それほどミクロではない生命もいますが、つまりこの意味です。ですからこれは違うところなのです。

しかし、在席の皆さんにとって、全くこれらのことを考える必要はありません。あなたの生命はその人ほどミクロではないから、そこまで修煉できないのではないかと考えているのですか？ 実はあなたは人間の考えを持って想像しています。まず、あなたは元に戻ることができるかどうか、圓滿成就できるかどうかの問題です。あなたが圓滿成就し、本当に元に戻れる時になると、自分がこのような考えではないと気付

きます。宇宙はとてつもなく大きいのですが、人間の考えのようなものではなく、人間はいつも高望みをしています。例を挙げて説明すれば、どこへ行っても、やはり自分の家のほうが良いと感じ、家に帰りたい人はいますが、この喩えはまだ適切ではありません。つまり、あなたはその時人間の考えではなく、自分の所が最も素晴らしく思い、どこよりも素晴らしいのですが、いくら次元の高い所もあなたのいる所ほど素晴らしくはありません。それは別の思惟方法です。

弟子：返本帰真の現れと執着によって現れてきた新奇をてらうことをどのように区別するのでしょうか？

師：理性的になる上に、法と照らし合わせることです。法に合っていないこと、大法の仕事をする時に現れてきた常人としての行為、これらは全て取り除くべきものです。もし具体的なことを行なう時、例えば法を弘める場合、人に法を得てもらえばかりでなく、大法のイメージを損なうこともなく、人を無理強いし引っ張っていない良い方法があれば、それは正常で、適当なことであり、執着と新奇をてらうことではありません。人に法を得てもらうために方法を考えるのは、本当に人の命を救うことであり、圓滿成就し、生命の始まったところに戻りたいということと同様に、執着ではありません。皆さんに教えますが、在席の皆さんが皆、修煉の真っ只中におり、皆修煉していますが、つまり皆さんにまだ常人の心があるということです。出した質問、考えている事、他人のことについて話したこと、お互いの間のことに、あなたも含めて皆、執着があるかも知れません。なぜならば、皆さんに常人の心があるからです。もし名や利を求めるために大法の仕事に携わっていれば、この心が取り除かれない限り、圓滿成就できません。しかし、逆から言えば、もしあなたが心から大法のために何かをしようとするならば、まず大法に立脚しなければならず、あなたの考えは二の次のことなのです。大法を顧みず、一途に自分ばかりを強調しているようでは、間違っていると思います。大法が第一なのです。

弟子：真善忍は永遠に変わらないものですが、もし生命がますます不純になってしまえば、真善忍まで変異してしまうのでしょうか？

師：生命が純粹であるかどうかにかかわらず、法は変わらないものです。このように説明しましょう。真善忍の三文字はいつまで経っても真善忍であり、他の読み方にしではいけないのではないのでしょうか？ 生命がその基準に近いか遠いかということに至って、それが生命の問題なので、わたし達は法、不動の法をもって、法から離れてしまった生命を絶えず修正しますが、これが即ち、圓融なのです。

弟子：息子は十五歳ですが、手におえないので、彼を収容所に入れました。わたしは息子を愛していますが、尽力して彼を助けようとしています。これは執着なのでしょうか？

師：皆さんの修煉の過程で、このような親の愛は今それが執着とは言えません。しか

し、わたしの修煉している弟子の皆さんに教えますが、実は人間それぞれに運命があるのです。親としての責任を尽くし、子供が既に自分の観念を形成し、或いは既に大きくなったら、あなたはなかなか彼を変えることができません。もちろん子供に対する教育は、親のすべきことですが、どうしても手におえず、子供がどうしても何かをしようとすれば、親にも為す術はありません。子供が犯罪をしない限り、あなたには本当に仕方がありません。もちろん、彼が罪を犯したら、法律をもってやめさせることができます。犯罪もせず、行いも悪く、しかもいくらしつづけても聞き入れなければ、大法を学ぶ以外に本当に仕方がありません。

人間それぞれに運命があり、誰も他人を左右することができず、あなたの実の子供の場合も同じです。子供に将来こうなってほしい、あぁなってほしいと思っていますが、皆さんに教えますが、億万の財産を残してあげても、もし子供にその福がなければ、火事で全部焼き払われ、或いは子供はすぐお金を使い果たしてしまいます。彼にそれを相続するほどの福がなければなりません。つまりこういった運命がなければなりません。子供にどこかへ勉強に行かせたいのですが、努力してできたのだと思っている人がいます。実は子供にこういった運命があるのです。あなたが執着していて放棄しない努力も、常人として必然的に行なう行為であり、なぜならば、人間は横になって天から望んでいるものが落ちてくるのをひたすら待つということを決してしないからです。その時になるとそうなるのだと人間に教えても、人間は信じないから、相変わらず苦心して苦勞をするのです。人間が取りも直さず人間なので、その苦勞も必然的なものとなりました。子供がまだ成人になっていなければ、教育しつづけることができます。もし既に大人になり、どうしても手に負えないのであれば、それもあなたの間違ひとは言えません。

弟子：副元神に制御された人の主意識を強める方法があるのでしょうか？

師：皆さんに既にお話しましたが、わたしは修煉者のためだけに責任を負うのです。もし一人の修煉者であれば、このような問題はありません。以前このような問題がありました。その時あなたは修煉していなかったのです。今修煉している以上、正々堂々と修煉し、全てを放棄し、一心に修煉すべきであり、なぜならば、どんな問題でも解決されますが、あなたが修煉者なので、もしこの問題を解決するために修煉をしようとすれば、それでもいけません。なぜならば、あなたはまだ完全な煉功者、修煉者ではなく、まだこの問題を解決するために修煉する気持ちがありますが、僅かばかりの心でもあれば、あなたはまだ自分を完全に修煉者として見なしていません。

方法のことにいたっては、ご存知のように、今一億人以上の学習者がいます。この一億人の中で、これより深刻な問題を抱えている学習者が多数いますが、皆、解決されました。しかもこの問題を抱えている人が副元神の問題ではないかもしれません。あなたは彼の本当の状況が分かっていません。ですから、本当に修煉しようとすれば、本当にその考えを放棄し、何も考えないようにとわたしは言いました。しかし、これはまた難しいことで、なぜならば、如何なることにも因縁関係があり、偶然ではなく、

或いはその人が以前に誰それと恩讐があるのかもしれませんが。ですから、本当に自分を修煉者として扱わなければなりません。しかし、このようなことにぶつかり、しばらくこの状態が続くかもしれません。わたしもその人がいかにこの問題に対処するか、心が固まっているかどうかを見てみたいと思います。本当にそのことを気にしなくなり、心を堅め、本当に修煉者としての心の状態に達することができれば、知らないうちに、何の問題もなくなり、あなたのために良い状態に調整したのかもしれませんが。ですから、修煉は極めて厳粛なことであり、見戯ではなく、決して常人のようにお金を払って誰かに解決してもらおうようなことではありません。これはお金では換えられないものです。

弟子：常人の中で迷い込んでしまいましたが、根基の良い人は、真相が現れた後、また人間になる機会があるのでしょうか？

師：あなたは考えすぎており、これらのことはみな、将来のことです。宇宙の衆生が宇宙の法から外れた時、宇宙で法が正され、異なる次元に適していない全ての生命は次元が下がり、それでもその次元に適しなければ再び次元が下がり、このように下がっていきます。次元が下がった生命、落ちて人間になる生命もいますが、人間にもなれない生命もいます。つまり全ての生命は皆、それぞれ自分の位置を配置しています。それは彼らの行為、彼ら自身の境地の如実な体現によるものです。今日の人類社会の全ての行為にみな、判断基準があり、つまり、人間も自分の未来のそれぞれの位置を決めています。人類社会がこのように尽きることなく腐敗堕落してはいけませんので、消滅される生命もあり、修煉によって上がっていく生命もいます。人間になる生命もいれば、他の何かになる生命もいます。言い換えれば、全ての生命は大法に対する態度によって自分の位置を決めているのです。

弟子：多くの時に、道理からどうすべきかが分かっているのに、本性の奥からそう思っているのではないので、他の人の心を打つことができません。

師：皆さんは修煉の過程で、時には常人のことや、世間の何らかのことに對して、心が動じないということが現れてきます。学習者にもまだ常人の心があるから、学習者どうしで何かを話すときにつまらないと感じる時もあり、このような状態が現れてくるといふこともあります。しかし、もし法を学ぶことに心が動じなければ、それは問題です。大法の仕事をする時、もし語ったことが法に則っていれば、人の心を打つことができますが、そうでなければ人の心を打つことができません。

弟子：大法を学びたい西洋人の学習者が今、漢方医学の《黄帝内経》を学んでいます。それが授業内容なので、影響されることがあるのではないかと聞きたいのです。

師：影響されることはありません。何故でしょうか？ このような場合は、わたし達はそれを全て仕事、常人社会のこととして見ています。ですから、あなたが学んだのはただの常人の技能であり、このことに對して、他に扱う方法があるので、影響され

ることはありません。

弟子：双盤がまだ非常に難しい段階で、大周天が通ることがありますか？

師：つまり足を組んでまだ非常に辛いときに、周天が通ることができるかどうかのことですね。この意味ですね。修煉の中で絶対的に一致した按配はありません。修煉のとき、あなたがいくら辛くても、単一的な形式として存在することはありません。あなたが痛みを感じている時、それは業を滅するときの現れであり、同時に体は煉功中に変化していますが、全て相補っています。しかし、時に足のストレッチングをしたり、煉功しないときも足を組んだりしますが、皆さんが修煉者であるから、随時に何かの機会を利用して、あなたを向上させます。

弟子：もしある日、弟子が破壊される対象となったら、どのように法を学ぶのでしょうか？

師：如何なる状況下でも、確固として大法を修めればいいのですが、どうして人に破壊されるということを考えているのでしょうか？ 修煉者として、周りに、或いはしばらく経ってから、どんな事が起きたとしても、よく分析すると、それなりの道理があるのです。

弟子：何回も何回も世間法を出ることの意義は何でしょうか？

師：繰り返して修煉するという意味ですね？確かにこのようなことで、あなたが圓滿成就すべき境地までずっとこのように修めるのです。天上の神があなたに難をもたらすことはないから、人間のこのところで修煉しなければなりません。非常に高い次元に達するために、一回が終わってはまた最初から修め、あなたが到達すべき基準まで続きます。上の方の功が伸びており、次元を突破していますが、あなたの修煉はまだ人間のこのところであるということです。このような場合もありますが、全部の人がそうではありません。

弟子：額に出てきた円を注意深く見ている学習者がいますが、これは何回も何回も世間法を出ることと関係しているのでしょうか？

師：このようなことではありません。実は修煉の過程で、体の変化は次元に応じてその次元の状態があり、全部異なっています。もし自分の修煉の状態を見たら、皆さんはまず驚いてしまい、それからあなたの心が耐えられなくなります。神佛の偉大さと壮観な光景、更に人間の言葉で表現できない複雑な状態、及び各次元の外観にある具体的な状態の現れは、人間がそれに耐えることができません。ご存知のように、各次元に異なる表現形式があり、頭から足まで、体の周りの場まで変化しており、突破が非常に速いとき、次元の向上が速いとき、それは毎日変化しているのです。皆さんもこのような仏像を見たことがあるかと思いますが、佛の頭の上に頭が四つあり、四つの頭の上に更に頭が三つあり、その三つの頭の上にまた頭が二つあり、その二つの頭

の上に更に頭が一つあり、組み運動のようです。これも佛の真実の形象であり、異なる次元での表現形式であり、荘厳かつ偉大で、人間の考えで想像できるものではありません。

弟子: 修煉は多くの苦を嘗めなければと知っていますが、日々の暮らしを愛しており、美しい物事に憧れており、物事をきちんと行ないたいと思っていますが、これは執着でしょうか？

師: 修煉の中では、これが執着とは言えません。どうしても幸せな生活を放棄し、何の憧れもなく、仕事をきちんと行なわなくても良いと、わたしはあなたに教えていません。かえって自分の仕事をきちんとこなすようにと要求しています。仕事をきちんとこなさなければ、どうしてよい人であり得るのでしょうか？ どこであっても良い人であって、はじめて本当の修煉者になります。ですから、修煉の過程で本さえ多く読み、法をよく学び、自分を修め、関や難に遭う時厳しく自分に要求し、トラブルに遭う時、内に向けて探すようにと皆さんに教えてだけです。このようにすれば、次第にあなたの境地は高まっており、出した質問に新しい見方、新しい認識が現れてくると思います。しかし、これはあなたが人為的にどうこうしようと思って、現れたのではなく、修煉のときに自然に昇華と再認識が起きるときの現れです。

弟子: わたしは先生の十歳の弟子です。煉功のときに足が絶えず震えており、それを制御しようと思うときに、動作が中断されてしまいます。

師: これは一時的な状態です。子供ですので、足を組む時に大人のように死ぬほど痛むようなことをさせていけません。業を滅するときの状態が現れることもあり、それほど辛くないかもしれません。これはある状態の現れであり、そのうち良くなります。

弟子: 先生は超物質の概念に言及され、超物質はわたし達のこの空間より更に物質的だとおっしゃいました。

師: またこのようなことに興味を持ち始めています。師父は皆さんに物理の授業をしているわけではありません。わたしはただ宇宙の構造に触れたり、皆さんに現れた昇華の状態と関連があったりする時だけ、宇宙の構造に触れただけなので、これらのことに執着しないでください。今宇宙の構造を皆さんに全部教えてはいけません。しかも宇宙は非常に複雑で、人類の言葉でそれを言い表すことができません。スイスで説法したとき、宇宙について話したことがあります。それを話すとき、はっきり説明するのに非常に難しかったので、本にまとめたときにその部分を念入りに修正しました。ですから、皆さんはその本を読んだほうがはっきり理解できるかもしれません。実は、その程度までしか説明できず、それ以上ははっきり言い表す言葉もありませんが、しかも常人の言葉で話すと本来のことと違ってしまいます。

弟子：わたしはいつも法輪功の音楽が聞こえますが、時に寝ている時でも聞こえます。
師：みな良いことです。大法の音楽ですので、修煉の中で大法の音楽に既に法の一面が現れ、しかも法の背後の内涵もあります。

弟子：年初のカリフォルニア法会の時、先生は「四大」について言及なさいましたが、もっと詳しく話していただけますでしょうか？

師：実は「四大」は釈迦牟尼佛が最初言い出したもので、つまり地、水、火、風という四大です。それはその境地において宇宙が存在する原因の現れですが、最終的な原因ではありません。ですから、皆さんにとって、まさに宇宙のように、あなたが宇宙の全体が見えたときにそれが宇宙だと思いますが、実はそれはただのある小宇宙の範囲に過ぎません。同じ宇宙は計り知れず、宇宙の更に大きな範囲に分布しており、分子がこの空間の全てに分布しているように、ここの全てが全部分子によって構成されていますが、このような概念です。それはある一定の境地に現れた一種の宇宙の形式です。しかしその境地に大法のその境地での現れとしての法があります。その境地が法の基準から外れてしまえば、その境地以下の全ての系統も外れてしまいます。ですから、長い年月の中で、法から外れたため、「四大」まで風化され、解体されそうになっていることにわたしは気付きました。しかしこれは既に更新される前のことです。

弟子：生命が増えることも減ることもなく、ある一定の宇宙天体の次元に存在しています…？

師：生命が増えることも減ることもないということは、間違いのないことです。もし、ある生命がその境地で消滅させられたら、同じ次元で新しい生命が生み出されます。実は地球は歴史上に、一人も多くなったり少なくなったりすることはありませんでしたが、いまこの話をしても人間はそれを信じません。中国は今一人っ子政策を実施していますが、中国の政策に関わっているので、これらのことはこれ以上お話しません。今西洋社会は人口が非常に少ないのですが、多分皆中国に転生して法を得に行ったかもしれません。（拍手）

実は、あなたがヨーロッパ人、南アメリカの人、北アメリカの人アフリカ人、オーストラリア人、またアジア人であるにも関わらず、あなたは本当の黄色人種ではないかもしませんが、本当の白人であるとも限りません。ですから、アメリカ社会では、多くの白人は黒人やいはインディアンが転生したもので、また多くの黒人は白人が転生したものです。ですから、これは何故白人の多くが黒人の味方をしているかということの原因です。

弟子：人間の観念は人間の一生を左右し、もしそれを変えなければ、人間を左右しつづけると先生はおっしゃいました。

師：そうです。わたしは以下の話をしたことがあります：白人が法を得る場合、道理から彼に教えれば、彼は見てすぐこれが真理だと分かります。道理から彼の後天的に

形成された観念をすぐ破り、真理を遮断し、真理を見させてくれない殻はすぐ割ってしまいました。しかし、中国人は違います。中国人には古来の観念があり、五・六千年の文明の歴史、諸子百家から現在にいたるまでの各種の学説、諸子百家以前に更に各種のものに対する信仰があったため、各種の観念が形成され、この生々世々に形成されたものはみな、あなたの全体の生命に蓄えられています。あなたの生命は死亡することなく、この肉体だけが洋服のように一生一生変わっています。一世一世に先天的に備わっている状態と印象が現れてきますが、もちろん常人には察知しにくいことです。

中国人の文化も深遠なものであり、多くの代のものもありますが、これらのものは中国に多くの経歴をもたらしたため、それらの観念を破るのは非常に難しいのです。これが真理だと教えたら、そうですかと言って分かったのですが、何故ですかと聞いてきます。その理由を教えたら、分かったといいながら、またその理由の理由についてまた質問してきます。このように最後までその観念を破らなければなりません。それで全部分かるようになり、何の質問もなくなります。ですから、文化の内涵の深い民族が多くのことを経験したため、非常に聡明だとわたしは時に感じています。しかし、真理を認識させるとき、これらのものも副作用をもたらしています。西洋社会の白人は思想が簡単で、それほど深い内涵がなく、それほど多くの阻害もないため、真理を認識した後、すぐ分かるようになります。

弟子：孔子の「論語」がいつも頭の中に現れ、できるだけそれに抵抗していますが、わたしは正しいのでしょうか？

師：修煉者として、もちろん正しいのです。孔子はただ人間を為すための道理を説いただけです。実は中国人は儒教思想が非常に強いのです。全てが一新されているかもしれませんが、なんととってもそれが人間のもので、それを排除すれば修煉にやはりメリットがあります。なぜならば、あなたが得ようとしているのは最も純粹で清らかな更に高い次元の法理だからです。それはいくら良くても、やはり人間のもので、この意味です。もしあなたの修煉まで妨害し、絶えずあなたの頭に反映され、修煉に影響していれば、それに抵抗し、排斥するようにします。皆さんに教えますが、どちらかの流派の思想を排斥しているのではなく、わたしは修煉者にどのように修煉するかを教えています。在席の皆さんの多くは修煉していますが、わたしはわたしの修煉している弟子に法を説いているのであって、常人に説いているではありません。このことをはっきり見極めてください！

弟子：主人は他の功法の気功師であり、わたしが業を滅しているとき、彼はいつも彼の方法で治してくれます。

師：皆さんもご存知ですが、わたしは心を重んじています。自分が確固として大法を修煉するもので、相手のそのものを受け入れず、夫婦であってもいいのですが、修煉に関しては厳粛でなければならぬと分かるべきです。表面では彼がどうしても治し

てあげようとし、男性だから力持ちで、どうしてもそうしなければならず、あなたは彼から逃げる事ができませんが、もしあなたの心が本当に固まっていれば、変化が起きると思います。また、彼は本当にあなたに何かを施したとしても、何の作用もありません。師父は全てを見ており、簡単にそれを払ってしまいますが、彼にはそれが見えません。

弟子：煉功のときに考えに雑念がありますが、知らないうちに邪法を練ってしまうことがあるのでしょうか？

師：考えに雑念があり、これは修煉の過程で誰にも存在する現象ですが、影響はありません。しかし、わたしが言ったあなたを悪くしたり、邪道に入らせてしまったりすることは、煉功のときに意識的に考えに他の修煉のものを入れたり、或いは他の意識に制御されたりする場合のみです。これ以外、他の修煉と関係ないことは何かを形成してしまうことはありませんが、全ての雑念を排斥すべきです。

弟子：座禅するときに足が痛くなくなった後、やっとな卵の殻にいるというような感覚は現れてくるのでしょうか？

師：そうとは限りません。もし三十分しかできない場合、この三十分内に痛くなければ、その間に現れてくる可能性もあります。ある日そこまで静かになって、その状態までリラックスできたら、この状態に入るかもしれません。しかし、長く続くとは限らず、数秒間、数分間後に出定するかもしれません。このような場合もあります。

弟子：多くの場合、知らず知らずのうちに、真善忍に背離してしまい、深く隠れている執着はその外にある執着に覆い隠されています。

師：これは大丈夫です。安心してください。確固として修煉さえしていれば、これらのものを取り除くことをしており、これらの良くない思想を認識し、排斥していれば、あなたは既に修煉しているのです。恐ろしいのは、執着をしがみついて放そうとしないことです。それ以外の場合は大丈夫です。なぜならば、あなたが修煉しており、あなたは確かに修煉しているからです。

弟子：弟子の全ての良くない心は曝け出されるのでしょうか？

師：これは間違いのないことです。わたしは必ず全ての良くない心を曝け出してあげますが、その時あなたが乗り越えられるかどうかは問題です。その良くない心が曝け出されて、これが良くない心だと気づき、良くないとはっきり分かっていますが、それを隠さず、必ず取り除いてください。トラブルが来たとき、つまりわたしはあなたにその心が現れたと教えている時です。しかし、皆さんは自分を見ないで、往々にして他人があなたに良くないとか、他人が間違っているとか、自分の意見や考えに合っていないとかを言っていますが、その時自分を見れば、その良くない心を見つけることができます。

弟子：未来、人類の道徳基準が回復した後、生命の階級は再び現れてくるのでしょうか？

師：異なる次元の天体にいる生命は異なる能力があり、人類の階級はその人の善悪、徳と業力の量によって決められています。地球では、人間の生命は全ての動物、植物を超えています。わたしもあることに気付きましたが、多くの中国人、特に大陸以外の中国人は家庭の観念、家族に対する観念が非常に強く、法より強いのです。これは確かに法を得る上での深刻な障害だと思えます。しかし、実際の修煉の中で、多くの人は確かに乗り越えましたが、これが大きな障害だと感じました。人間には人間になるための基準がなければ、人間と呼ぶに値しないのです。どうして猿を人間と呼ばないのでしょうか？ 人間には人間の基準、人間の行動に関する観念と道徳の規準があるからこそ、人間になったのです。しかしこれが極端に走ったら、それではいけません。

弟子：人類の歴史はこの70億人の間で輪廻転生しているのでしょうか？

師：多分そうでしょう。このことは皆さんが皆、興味を持っています。実は今日の社会は歴史上かつてなかったのです。皆さんが新聞を読んだと思いますが、わたしが宇宙人の話に言及したと言って、それが可笑しいと思っている人がいます。皆さん考えてみてください。歴史上かつてこのような人類はなかったのですが、歴史上人類の科学よりも進んでいる時期があり、今を遥かに超えていました。現在の人間は月を作って天に置くことができませんが、歴史上の人類はそれができたのです。しかし、今日人類が発展させているこの科学、この状態は人類の全過程での唯一の発展の道ではなく、他にも異なる道がありました。今日の人類の科学は実は宇宙人がもたらしたものです。宇宙人を研究して、宇宙人の信号を収集している人がいますが、実は宇宙人はあなたと隣り合わせしており、ただあなたと接触していないだけで、彼らは非常に系統的にやろうとしていることを行なっています。

皆さん考えてみてください。この間科学が宗教だと言いましたが、皆さんにもすぐそれが分かりました。宗教の中で教主、牧師がいるのに対し、科学の中でも校長、博士、修士、学士、教授、助教授などあれこれの肩書きがあります。しかも、科学は非常に整っており、系統的で、あらゆるところに存在している宗教の形式でもあります。人間の科学に対する信仰は、全ての宗教に対する信仰を超えており、しかもそれが人々に気付かれていないことです。もし勉強できなければ、この社会に淘汰され、良い仕事につくことができず、生計を立てる良い手段もありません。一般的に言う宗教はまず精神からあなたを信じさせ、それから実在の真実の神の存在を見させ、聞かせ、感じさせるのです。一方、科学という宗教は、物質的にあなたを認識させ、この物質上において発展させることによって、科学への精神的な依頼に至らせるのです。科学の場合は逆になっています。

しかし、わたしは科学に反対しておらず、なぜならば、科学も宇宙の産物だからで

す。わたしはただ科学とは何かを皆さんに教えただけです。しかし、科学は科学的ではなく、人類に多くの永遠にも解決できない災難をもたらしました。ご存知のように、空気の汚染、工業による空気の汚染ですが、永遠に最も清らかな状態に戻ることができません。工業による水汚染の場合、人間はいくら良い方法を探っても、永遠に水を最も純潔で清らかな状態に戻すことができません。人々がこのような空気を吸い込み、このような水を飲んでいますが、人類はこのまま進んでいけば(大法弟子は含まない)、変形してしまい、四肢の仕組みまで変わり、しかもますます加重していきませんが、これは物質的に科学のもたらした災難です。精神の場合、科学まだそこまで進んでいない時、科学のまだ認識できていないもの、或いは神の存在、または良い人には良い報い、悪い人には悪い報いがあると口にしたら、科学はあなたが迷信的であり、科学的ではないと言い、科学という棍棒を振り回してあなたに打撃を加えます。しかし、それによって打ち壊したのは何でしょうか？ 人間の神に対する信仰、人間の道徳を守る観念を打ち壊したのです。これを打ち壊してしまったから、人類を守る道徳規準は徹底的に破壊されました。ですから、今日人間はどんな悪事でも敢えてやりますが、これはこの進んでいない科学がもたらしたことではありませんか？

わたしはただ皆さんに真実の状況を教えているだけです。わたしは科学に反対すると言っていないですが、ただ人間があまりに科学を迷信しているが故に人類にもたらした危険を言っているだけです。この科学は他でもなく宇宙人によってもたらされたのです。宇宙人の目的は何でしょうか？ 宇宙人は系統的に人類に数学、物理、化学に関する学問を与え、それから、あなたの身体と思想に彼に必要な思想を形成したのです。今日人類は科学がもたらした生産労働の道具、労働方式、日常用品及び生活様式、及び科学が作った人間の思想様式と一切の行為によって、完全に現代の変異した思想を形成してしまいました。今の人間は誰でもそうですが、皆宇宙人が人間に与えた思想を持っており、免れた人は誰一人もいません。なぜならば、あなたが接している全てはみな、現代科学によってもたらされたものだからです。科学は穴さえあれば乗じて来るものなので、あなたの生活の全ては科学から離れることができません。

それでは、現代科学が作った外観世界で構成した物質環境において認識した思惟方式と観念によって構成された思想はあなたの思想に形成され、それも一層の粒子によって構成されています。あなたの行為が思想に支配されているため、あなたが操作している全て、運転する車、行なっている全ても科学によって与えられたのです。それによって、人体と思想にみな一層の粒子を形成し、宇宙人は人類に科学をもたらし、宇宙人の科学の一層の粒子を構成したのです。これはまさに宇宙人が人体を得るために行なった系統的な按配です。

また皆さんもご存知のように、科学は人間の欲望を利用し、人間は自分の欲望の中で発展しています。現在の科学に対して疑問を提起する場合、いつも一部の科学者の反対を招いていますが、疑問を提起することさえ容認しないという考えまで科学そのものの役割であるということは人々が知らないのです。ここから、疑問を容認しないいわゆる科学者が、感情に動かされており、理性的ではないということを窺うことが

できます。実は皆さんに教えますが、今日まできたら、科学者が発明でき、創造できるものは人間によって作られるのではありません。誰が作ったのでしょうか？ 宇宙人が制御している人間の脳に作ったその構造が作っているのですが、この構造はまさに宇宙人にしっかり掌握されています。この構造はあなたにひらめきを与え、何かを発明させますが、系統的に人類を占有し始めたのです。

皆さんもご存知のように、人間の欲望は絶えず人間を発展させています。最初はロボットを作りたがっていたのですが、今はロボットではなく、人間を作り、つまりクローン人間を作ろうとしています。もし本当にクローン人間が成功したら、皆さん考えてみてください。人間は神によって按配されており、ある人が生まれたとき、もし人間の元神がなければ、ただの死体になります。どうしてどこも悪くないのに、人間は死んでしまうのでしょうか？ どうして突然死んでしまう人がいるのでしょうか？ その人の元神が去っていったので、元神がなければその人はただの肉の塊になってしまいます。人間は元神がいるから、生きています。人体はあたかも服のように、人々がそれを着たら、人体は動くことができ、着なければ動くことができません。皆さん考えてみてください。神がもしクローン人間に人間の元神を注ぎいれなければ、人間が人間を作っているのに、神は決してそれを認めませんが、どうすればいいのでしょうか？ 宇宙人はちょうどこの虚に乗じて、その人の元神になることによって、人間の身体を得て、それで人間を占有してしまいます。このような人はますます多くなり、人間の欲望が指図され、人間が絶えずこのような人間を製造し、ますます多く製造することによって、優勢になってしまいます。このような人間も人間の一分子となり、人間より賢いのです。人間の考えにも彼らの一層の粒子が存在し、彼らにコントロールされてしまいます。そして、このような人間は今後生殖を認めず、全部クローンしなければならぬと法律を制定することによって、大量に地球に侵入します。表面上人間のように見えますが、既に宇宙の生物になり人間ではなくなります。皆さん考えてください。わたしは決して人間に神話を説いているのではありません。(拍手)

もちろん、現在のこの状況に面して、人間は全く為す術がなく、科学がもたらした全てを振り捨てることができません。なぜならば、人間の科学が彼らに掌握され、人間は全く彼らの存在を見つけることができないからです。人間はまた宇宙人と連絡を取りたいと思っていますが、今日の人類の全てはほぼ宇宙人が発明したもので、宇宙人が連絡してくれないと人間は思っていますが、実は人間は時々刻々宇宙の生物と連絡しているのに、まだ宇宙人を探す必要があるのでしょうか？ ですから、この全てを前にして、人類は為す術がなく、解決することができません。これはわたしが見た現在の人類の最も深刻な問題の一つであり、わたしはそれを明らかにし、人類に教えました。

科学に反対しないとわたしは言いましたが、わたしは人類の真実の状況も見ました。なぜならば、わたしもこの環境で皆さんを済度しているのです、ここに暮らさなければならず、車や飛行機に乗ってここに来なければなりません。科学と宇宙人も宇宙の中

の産物です。しかし、人類の発展に最初から滅びてしまう日があり、これは規律なのです。わたしはただ、学習者の修煉のため、学習者に宇宙を知ってもらうために今日のこの現象を皆さんに教えました。具体的な話をすると、多くの常人がそれを信じないため、わたしも話さないことにしました。実は人類にとって、パソコンの発展は極めて恐ろしいもので、自分で自分を消滅したのに、なぜ自分が消滅されたのか、そのわけも分からないのです。現在人間はパソコンに資料を保存して、それからパソコンで結果を分析していますが、このままで発展していくと、パソコンを使って決定を下し、人間はパソコンの言うことに従い、それからパソコンは完全に人間を指揮するようになります。パソコンの知能化が進めば進むほど、人間はパソコンに依存し、最終的に完全にパソコンに制御されてしまいます。つまり人間自身の欲望が利用され、自分を壊滅してしまうこととなります。

弟子：師父がお書きになった経文は、往々にしてある背景に対して書かれたもので、海外修煉者の法に対する理解に影響するのでしょうか？

師：そういったことはありません。皆、同じです。わたしが書いた《精進要旨》は主に皆さんが修煉している過程で現れた問題を修正するためのものです。修煉について言えば、《転法輪》を離さずに修煉すればよいのです。何の影響もありません。

弟子：集団で法を学ぶときに、あるところまで読んで考えさせられましたが、それが分かったときになると、皆さんは既に前に進んでしまったのです。

師：これは大丈夫です。法を学ぶ目的は皆さんを分からせることであり、何かが分かることが第一義のものです。法を読んでいるとき、自分が読んでいるこの行の意味が分からなければならず、少なくとも、表面の意味が分からなければなりません。読んですぐ忘れたということですが、気にしないでください。それは大丈夫です。ひたすら読んでください。自分が何を読んでいるかも分からず、ただこのように読んで、読んで、口は朗読しており、目は追っていますが、心がここにあらずではいけません。それなら、修煉の目的に達することができません。

弟子：佛家は どうして とりわけ縁を重んじているのでしょうか？

師：実はみな縁を重視しています。多くの宇宙の真相は皆さんに教えることができません。なぜならば、彼らが神だから、皆さんに人間の考えで彼らのことを考えてほしくないからです。人間は宗教の中で修煉すれば天国に行くことができると思い、神を敬い、神の言うとおりにすれば神は見守ってくれると思っています。実は今までの歴史において人々は修煉によって天国に行こうとしていましたが、非常に難しかったのだということは皆さんが知らないのです。落ちてきた以上、もう絶対あなたに上に上がらせ、つまりあなたに戻させないのです。なぜならば、あなたがいくら修煉しても、彼らを汚染してしまい、彼らほどきれいではないと神は思っているからです。しかし、今日は違いました。ご存知のように、わたし達は本源から更によく行なうだけでなく、

彼らの旧くなった一切を超え、宇宙の歴史上にあった最高状態を超える状態になるのです。(拍手)

弟子：多くの弟子はまだ世間法を出たと感じていませんが、彼らは圓滿成就に間に合うのでしょうか？

師：法まで得たので、心を放下し修煉さえすればいいのです。間に合わなければ、わたしは皆さんを済度することをしないのです。実はわたしが最も心配しているのは、時間のことではなく、あなたが大法の中であって最後まで修煉しつづけられるかどうかのことです。既にかなり高い次元まで修煉したが、何の感覚もない人もいます。感覚をもって修煉の高さを量ってはいけません。感覚が何のものなのでしょう？ どうしても感じさせない人がいますが、彼が高い次元から来たからです。少しだけでも感じてしまえば、少しの迷いと悟りを破ったことになり、それで元のところに戻れなくなるかもしれません。なぜならば、彼に対する要求は厳しいからです。他の人は見えても、戻ることができますが、彼は見えるどころか、感覚もあってはならず、僅かばかり足りなければ、先天の位置に戻ることができません。このような道理ではありませんか？

弟子：師父の《洪吟》を読んで、師父の壮挙に感涙が絶えません。一種の言いようがない深い慈悲を強く感じました(拍手)。師父に恩返しできないことは弟子として永遠の遺憾だと思っています。

師：実は遺憾に思う必要はありません。皆さんが法を得るのも容易い事ではなかったのです。偶然のことで誰かから教えられ、法を得たと皆さんは思っています。それはあなたの心底に埋蔵しているもので、電気のプラグのように、繋がってすぐ電気が流れてきました。しかし、プラグがほこりや泥に汚され、差し込んでも電気が流れてこない人もいます。多くの人は法を得るために、歴史上多くの苦を嘗め、修煉しており、しかも修煉の過程で多くの苦を嘗めました。

弟子：もし子供が修煉せず、親が圓滿成就したら、子供はどうなるのでしょうか？

師：あなたの現在の状況からそれが執着だとわたしは言えません。なぜならば、あなたは今その境地にいるからです。しかし、このことに対して、皆さんは高い境地に立脚して考えれば、それが執着だと分かります。自分が圓滿成就できるかどうかも分かっていないのに、どうしてこれほど多くの後顧の憂いがあるのでしょうか？

考えたことはあるのでしょうか？修煉して圓滿成就して、生々世々に借りた債務、恩讐などを構わずに行ってしまうてはいけません。あなたがここで返したのは、ただ精神の面で借りたもので、実質的に借りたものはまだ返していません。それならどうやって圓滿成就するのでしょうか？わたしはそれらを全部解決してあげ、あなたのために多くのことをやってあげます。考えてみてください。あなたの恩、あなたの恨みなどは全部解決してあげます。どのように解決するのでしょうか？その前提として

は、もしあなたが本当に圓滿成就できれば、あなたの世界が何もなくてはいけないということです。佛は衆生を済度すると言っているのではありませんか？ あなたの世界にも衆生がおり、それはあなたが以前殺した生命であり、あなたが借りた債務であるかもしれないし、またはあなたと仲のいいものであるかもしれません。恩と讐の二種類の縁も解決してあげなければならないので、多くの生命はあなたの世界の衆生になるかもしれません。

歴史上の恩讐を全部片付けてあげるから、あなたの現在の縁も解決してあげるのではありませんか？多くの女性は子供に対して…、本当にあなたの修煉に影響しています。心を放下し、ひたすら修煉して下さい。実はある人に対し、いくら捨てがたくても、死ぬときになると、捨てられなくても捨てなければなりません。寿命がそれほど長くない人もいますが、ある日死んでしまえば、捨てたくなくてもいけません。もし修煉して圓滿成就すれば、あなたが誰を済度したいのかということは師父も知っています。しかし、また形を変えてこれに執着してはいけません。

弟子：ある修煉が良くできている人は「有為も無為の中にある」と言いましたが、それを聞いて分からなくなりました。

師：これは妨害されたということではないでしょうか？私が大法の中で話したことでなければ、考えないでください。大法を修煉している弟子が話したことで、その人が異なる状態、異なる境地で悟ったことであるかもしれません。正しいかもしれませんが、間違っているかもしれませんので、構わないでください。わたしが話したように行動すればよいのです。心を法に置き、他人が話したことに執着しないでください。

皆さんがはっきり分かっているなければならないのは、法を伝え、人を済度することが有為か無為かの問題ではありません。これは一般の生命が理解できることではありません。しかも行われたことは人間のこのところに現れてきません。佛の世界も多彩であり、しかも更に素晴らしいのだとわたしは話したことはあります。でなければ、誰が佛の世界に行くのでしょうか？人間が考えているようなことではありません。佛・道・神から見れば、人間が行っていることの多くは、その人が佛の世界に行くことにひどく妨害しているので、全て有為の執着です。しかし人を済度するということはまた別のことです。しかも、皆さんに教えますが、わたしがただ人を済度しているだけではなく、人を済度するのはわたしがやろうとしていることの一部に過ぎず、他の原因もあります。例を挙げて説明しますと、この宇宙はもうすぐ解体してしまい、ある神はそれを解決することができますが、何もしなかったとします。それでは、この神が手を出したら、それは有為であり、何もしなかったらそれは無為なのではないでしょうか？これは人間の言葉で高い境地のことを話していますが、高い境地ではそれが別のこととなり、人間の有為という概念で佛の境地と更に高い境地を包括することはできません。

弟子：泰山はわたしと深い縁があり、これに対して多くの謎を抱えています。師父は弟子のために少しばかりの困惑を解くことができるのでしょうか？

師：できません。わたしは修煉者に修煉の中のことを説き、あなたの圓滿成就に責任を負うことしかできません。生々世々のことに執着すれば圓滿成就できません。あなたに説いてしまえば、あなたの執着を強めることになります。

弟子：心の中で補導員、責任者になりたいと思う時がありますが、これは強烈な執着と有為なのでしょうか？

師：実は多くの補導員は選ばれたものではありません。ただ彼は法を得て、この地区に煉功する人がいないから、何人かが煉功しにくるようにしましたが、自然に彼は責任者、補導員になりました。責任者もわたし達大法の中の特有な言葉ではなく、常人の中の言葉です。昔、気功科学研究会に所属しているものは「站」と呼ばれ、皆補導站と呼ばれていました。

皆さんのために何かをしたいというのは良いことです。しかし、責任者になりたいからそうしたのであれば、それはよくありません。なぜならば、ここに役職がなく、その役人に給料を払うこともなく、何もありません。あなたが皆さんのために何かをしようとするにはわかっているのに、条件を整えればやっていいと思います。官職につかなくても皆さんのために良いことをすることができ、熱意で行えばいいのです。現在多くの地区の多くの人が大法を学んでいます、これは学習者が法を弘めるために多くのことをしたことの結果です。

弟子：わたし達はここで先生の説法を聞いていますが、わたし達の各空間にある体も聞くことができますか？

師：わたしは最も本源からあなたの身体を変えているのではありませんか？ どうしてまだ心配しているのでしょうか？（拍手）ここにあるあなたは聞いているだけで、変化は小さいものですが、むこうの空間のあなたは本当に変化しています。

弟子：法会に参加するたびに、障害と難に遭いますが、自分の業力によるものなのか、それとも間違っただけ何かをしたからでしょうか？

師：問題にぶつかったら、自分を探すべきです。難も偶然ではないので、必ずあなたの何かの心を除去するためのもので、それによってあなたを向上させています。

弟子：法を学んでから、常人のことはやってもいいし、やらなくてもいいと思っていますが、どのようにして、自分に何かのことをやろうとしている執着心があると判断するのでしょうか？

師：更に詳しくお話しますが、皆さんは常人の中で修煉しており、できるだけ常人の状態に適しながら修煉すべきです。わたしのこの話が及んでいる面は非常に広いのです。あなたの衣食住、生活、仕事、勉強など全てが含まれており、最大限常人に適応

しながら修煉すべきです。昔の出家者のように、修煉すると、浮世に嫌気がさして出家してしまっただけではいけません。常人の中で修煉するようにとわたしは教えました。しかも皆さんに教えますが、あなたが行った全てのことは昔よりも良くならなければなりません。この法を伝えだされたときに、仕事のある人、忙しい人がどのように修煉するかを既に配慮しました。ですから仕事が終わったら修煉し、法を学べば、決して取り残されることはありません。わたしはあなたの執着心を取り除いていますが、あなたの物質的な何かを取り除こうとしているわけではありません。もしこのようであれば、町で乞食をしている人は皆次元の高い人になります。このようなことではありません。取り除いているのは、人間の心であり、執着して放さない心です。

既に話したことはありますが、金のレンガで家を作ったとしても、心に何もなく、金を大事に思うことなく、それほど強い欲望もなく、あればあるで、運命にあるものだと思って気にしません。これができれば、つまりその心を取り除くことができ、何があっても気にしていません。常人のような執着の心がありませんが、周りの人に望まれ、どうしても役職についてほしいのであれば、その役職についても構いません。商売が非常に繁盛しており、どうしても儲かるのであれば、儲かっても構いません。どの階層にいても、修煉することができます。くれぐれも極端に走らないでください。昔修煉して真の法を得たら、何もやらなくなった人はいますが、これではいけません。なぜならば、わたしが皆さんに教えたのはこのような修煉方法だからです。大法の中で修煉してまだ圓滿成就していなければ必ず常人の心があるから、常人の仕事をすることができ、ある程度の人間の情もあります。

弟子：執着心ではないかと認識していますが、なかなか取り除くことができません。肉食問題のように功から反映されることはありますでしょうか？

師：執着心だと認識していてもまだ取り除かないのですか？もちろん一遍に取り除くことができず、誰でもそうですが、徐々に自分を抑え、更によく行うように自分に要求していれば、次第にできるようになるのではありませんか？もちろん、先生が徐々にと言ったから、ゆっくりやりましようと思ったら、それは向上心がなく、精進しておらず、自分の修煉のために責任を負っていないということになります。修煉中にいかに自分を煉功者と見なすかということですが、本当にそれができれば、全てをすぐ理解できるようになると思います。

弟子：今回の法会で、体の苦を求めて業を減すると言及した学習者がいました。

師：それは間違っています。正しくありません。自分に修煉や業を減する方法を按配してはならず、自分で苦を求めてはいけません。それなら、わたしが按配してあげた修煉の過程を乱してしまうことになります。ですから、本を読み、法を読み、修煉し、トラブルにぶつかったら自分を探しさえすれば結構です。仕事をよりよくこなし、勉学もよりよくやり遂げればよいのです。(拍手)

弟子：修煉すればするほど常人の観念はますます強くなったと感じ、自分が修煉者であるかどうかも分からなくなりました。

師：皆さんに教えますが、修煉の中で、だんだん自分の執着心を明確に意識することができるようになるのは、皆さんに教えますが、それは後退ではなく、進歩なのです。常人は意識することができませんが、皆さんは明確にそれを意識することができ、修煉が良くできていると言ってもいいのです。しかし、どうしてこれらの心はしばらく取り除くことができないのでしょうか？わたしが与えてあげた修煉方式がそれを決めたのであって、すぐに執着心を全部取り除くのではなく、段階的に一層一層に行っています。このようにして、皆さんにまだ何らかの常人の心があって、常人の中で暮らすことができ、徐々に修煉し、向上しているのです。でなければ、執着心がなければ、向上することもできず、修煉も終止符を打つことになり、常人の中にいられなくなります。ですから大法は他でもなく、このように修煉しているのです。

弟子：《転法輪》を読むときに、一章を通読した後、内容を覚えるために、中の一部の文を読み返していますが、このような読み方は正しいのでしょうか？

師：それでもいいのですが、皆さんに教えますが、他でもなく一回一回繰り返し通読するのは最もよいのです。

弟子：右目の下に副通路はありませんが、これは法と関係があるのでしょうか？

師：これは法がこの次元の生命のために切り開いた存在形式であり、これもある次元での現れです。もし次元が高くなれば、また変化があります。とても高い次元では、その目は多くの層の空間を貫き、見通さなければならず、ミクロからマクロまで見通し、更に複雑な生命の存在形式と空間の存在形式を見通さなければなりません。高い次元にいる者は人間のように悪いことをせず、そのような形式の目は既に働かなくなりました。ですから、全ての次元の目も変化しています。先ほど話したではありませんか？ある人の身体は全ての次元において、表現形式があり、外在的な表現形式まで変化しています。もしそのような次元があれば、顔面に蜻蛉のような目が現れ、中に無数の目がありますが、このような状況も表れてきます。修煉のとき、異なる次元における表現形式は非常に複雑なものです。皆さんにこれらの話をしたくありませんが、つまり皆さんがこれらのことに執着しないでほしいということです。全ての次元での状況を皆さんに見せたら、皆さんはそれに一生執着し、上まで修煉できなくなります。なんと素晴らしいことだろうと常に執着し、常に頭の中で思ってしまいます。ですから、それではいけません。低い次元で修煉しているとき、右目に通路がないということの原因は、人間が銃を打って人を殺すときや、矢を射るときもこの目を使っているからです。いずれにせよ、よくこの目を使って悪いことをしているからです。もちろん他の原因もあるから、智慧の真眼がまだ現れていません。

弟子：座禅をすると、頭が左右に振れたり、上下に動いたりします。

師：これは非常に自然な現象です。多くの人も知っているように、もし子午周天が通るようになる時、大周天か小周天かに関わらず、子午周天という形式の周天が通るとき、頭が上下に動くことがあります。逆方向で回る場合、頭が上がる場合があります。脈が時計周りで回っている場合、頭が下方向に動きますが、逆時計周りで回っている場合、頭が上がり、脈の動きで頭が上下で運動します。もし卯酉周天が通るとき、頭が左右に運動します。右方向に脈が動いていれば頭が右に動きますが、逆も同じです。しかし、その動きに従って動いてはいけません。それは一種の執着であり、歓喜心です。ですから、できるだけ動かないようにしてください。頭を上げたり下げたりする佛道はいないでしょう。そうでしょう。佛道にこのような現象はありません。煉功の初期にこのような状態が現れますが、できるだけその動きに従って動くようなことをしないでください。

弟子：新聞に先生の略伝を推薦しようと思いますが、これは妥当でしょうか？

師：妥当ではありません。わたしは自分のことを話したくありませんが、皆さんも話さないでください。皆さんがわたしのことを知りたがるので、《転法輪》に非常に簡単な略伝を載せましたが、今は取り下げしました。皆さんに教えたのが他でもなく法なので、この法を学んでください。わたしの状況に対しても興味を持たないでください。この法さえ学べば、あなたを圓滿成就させることができます。(拍手)

弟子：会社に勤めている学習者は、もし上司から嘘をつくようにと言われたら、どうすればよいのでしょうか？

師：この具体的な問題についてわたしは既に説いたことがあります。どのように行うかということは皆さんがつまり修煉しているのです。これは非常に簡単なことです。どうしても避けられない場合は、それはあなたがやったとは言えません。しかし本当の修煉者として、このようなことはだんだん少なくなります。しかもあなたが具体的に動く場合、程合いを考えなければなりません。具体的なことは自分で判断してください。わたしは具体的なやり方を教えてはいけません。それなら、あなたが修煉するものもなくなります。

弟子：国内の海賊版の本は、法輪図を先生の写真の前のページに置きましたが、このような本は問題があるのでしょうか？

師：今海賊版の本は氾濫しています。わたしの大法の本は超常的な法理を述べましたが、わたしはできるだけ学術的な観点から述べています。社会にあるでたらめなエロチックなものは非常に汚く、人に悪いことを教える本であり、でたらめで何でもあります。しかしこのような本まで出版できるのに、よい人になるようにと教えている本は出版できないのです。どこが間違っていますか？皆さん考えてみてください。一億人が大法を学んでおり、国の税収にかなりの収益がありますが、このような本を出版

させないから、海賊版が多く現れてきました。海賊版だから、税金を払わないので、国も税金をもらえなくなります。これはまたどこか間違っています。

海賊版の本に対して、わたしはこのように見えています。彼らと喧嘩することができないから、どうすればよいのでしょうか？ 植字版を新たにして印刷したものは買わないでください。なぜならば、必ず誤字脱字があるからです。本を出版するときの校正は非常に難しいことです。それが法だから、おまけに魔の妨害、人間の思想にある業力も邪魔しているのです、非常に難しいのです。海賊版を作る人は学習者ではないので、このようなことをすれぱうまくできないかもしれません。昔、中国の正規の出版社によって出版されたとき、校正は全部学習者によって行われました。ですから、海賊版には誤字脱字、甚だしい場合、ページの乱丁落丁などあるから、このような本を買わないでください。レーザーで植字版したもの、つまりわたし達の本そのまま読み取ったものは、買ってよいのです。なぜならば、大法の内容を改ざんしなかったからです。

弟子：ずっと縮んでいる宇宙の膨らむ速度が急に速くなり、しかもますます速くなったと科学者は観察して分かりましたが、誰が力を与えたのかと皆、推測しています。

師：人類が認識しているこの宇宙、望遠鏡で見たこの宇宙も、分子で構成したこの表面粒子によって構成されたこの空間の中のものなので、この空間を超えていません。この宇宙の運動に至っては、地球は太陽をめぐって運行しており、電子は原子核をめぐって運行しており、物質は運動していると皆さんは知っていますが、実は更に大きな運動形式が存在しています。数年前、地球が呼吸しているように、膨らんだり縮んだりしていると科学者は発見しました。地球が分子によって構成されており、更にミクロ的で更に小さい生命によって組み合せられたもの、地球の中に生存している生命の組み合せ体は地球を宇宙として見ているのではありませんか？ 地球を構成した全ての分子は皆、星ではありませんか？ それも一つの宇宙です。それでは、地球のこのような動きは何でしょうか？ 宇宙の中で観測した現象と同じではありませんか？ 突然速くなったりまたは遅くなったりしたことに至っては、他の原因があります。もちろん皆さんに教えたことがあります、法を正すことを行う時、時間を超越して行っており、同時に全ての空間を超越して行っています。でなければ、一生を尽くしてやり終えないのです。

弟子：時に以前に悪いことをした時の考えが現れてきて、大法を修煉する資格はないと思っています。

師：本当に大法を放棄しないでください。これらのものの妨害を意識することができるのは、かえっていいことです。つまりこれらのものが自分ではないと意識することができ、それを克服し、抑制していますが、この時それを滅しているのです。もし何の念も動かさずに、頭によくない念が現れ、自然に現れてきたら、それは業力があなたを妨害しており、修煉をさせないようにし、大法を修煉する資格がないように感じ

させています。なぜならば、あらゆる物体は皆、生き物だからです。特にあの業力はあなたの思想に形成されたので、あなたの思想と直接繋がっており、あなたの頭に反映されたら、自分の考えだと思ってしまいますが、実はそれはあなたの考えではありません。

弟子：わたし達はオーストラリアの学習者ですが、カナダの法会に参加しにきましたが、間違っているのでしょうか？

師：間違っていない。法を求めに来ているのに何が間違っているのでしょうか？皆さんが着実に修煉する時間が少なくなったのではないかを心配しているだけです。

弟子：今まで乗り越えてきた関を振り返って見たら、ただ表面でできただけで、本当に心からできていないと気付きました。

師：このことに気づき、根本から自分を変え、今まで乗り越えた関を振り返ってまだ足りないと感じ、皆さんに教えますが、これこそ修煉なのです！ 具体的に言えば、修煉がまだ足りないと感じ、いかに更に精進するかと考える事は、非常に素晴らしいことです。

弟子：各地の補導点はお互いに法輪功のバッヂを贈りあったり、同じ黄色い煉功を着たりしていますが、人々に文化大革命の時のことを思い出させています。

師：多分文化大革命はあなたに非常に深い印象を与えました。しかしその時は謀反を起すのが正しいということだったので、わたし達はこのようなことを行いません。わたし達は人に善く対処し、皆よい人になろうとしています。

服装のことに至っては、実は彼らと話したことがあります。集団活動をする時、どうしても統一した服装を着ようと思えば、着てもよいのです。しかしこれらの服がどこで作られたのか、わたしも分かりません。各地は皆自分で作ったようです。皆統一した服装を作って、運動着のような感覚で作っています。しかし、普段煉功する時に、着ないでください。第一に、宗教のように思われているからです。第二に、この服を着て煉功していれば、この服を着ていない人は学びたくても、近づくことができません。ですから、普段は着ないでください。集団活動の時、必要があれば着たほうがよいと思います。

弟子：自分の敵を愛さなければ圓滿成就できないと師父はおっしゃいましたが、一年経ったにもかかわらず、師父が要求したように、他人の利己と虚偽を許すことができません。

師：このようなことはありません。皆さん考えてみてください。人間の利己と虚偽は、自分で自分を破壊しているのですが、これは気の毒ではありませんか？ 利己で虚偽であり、ますます悪くなれば、その人が直面しているのは消滅されることです。皆さんは、かえってますます良くなり、上に行くことができますが、そのような人を

見て気の毒に思いませんか？ しかし利己と虚偽そのものは許してはいけません。しかしそれは本当の人間ではないので、そのような人を許すべきです。また、人間が定めた敵は人間の敵であり、皆さん考えてみてください、それは修煉者の敵ではありません。皆さんは常人を超越しようとしている人達であり、神は人間を敵と見ているのでしょうか？ 常人の次元を超えた人は常人を敵として見てはいけません。ですから、あなたの敵を愛していなければ圓滿成就できないと教えました。(拍手) 大法を破壊する魔はこの限りではありません。

弟子：中国の 25 の省、市、区の 48 地区の大法弟子は現地の大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：16 ヶ国の大法弟子は自国の大法弟子を代表して、師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：説法が終わったら、大手印を打っていただけないのでしょうか？

師：大手印のことですか？ 打ってはいけないということではなく、皆さんに打ってもいいのですが、他の地区の法会では、これからこのような要求を出さないでください。多くの学習者は大手印の本当の内涵を理解することができず、師父がここでパフォーマンスをしていると思わないでください。それだったら、わたしは非常に悲しく思います。もし人間が大手印の偉大な意義を理解することができなければ、わたしは行いません。ですから、これらのことに注意してください。

では、大手印を打ちます。

師父の結語：

法会はそろそろ終わりますが、わたしはここで最後の説法をしています。

古くからの学習者がますます成長してきたとわたしに分かっています。これを見て、本当に非常に嬉しく思っています。皆さんが法に則って法を認識し、自分を本当の修煉者と見なすことができ、このことは大法が世間や常人の中に存在するという形式を強く堅く安定させることに貢献しました。あらゆることも大法を破壊することができず、どんなことも大法を動かすことはできません。(拍手)

人間が心の中で何かをやろうと思っていれば、外在的なあらゆる形式もそれを変える術はありません。もちろんわたしは人々に良い人になるようにと教えており、皆修煉の中にいます。わたしは学習者の確固としており磐石のように堅固な力量によって生み出された作用を感じました。同時に、在席の皆さんの中に大法をまだ理解できていない人もおり、他の原因で会場に入った人もいます。しかし、あなたが記者であれ、スパイであれ、または他の仕事に従事している人であれ、このようなことはあなたが

一生に今までなかったことだと思えます。わたしが説いたことは常人が話せることではありません。常人の中の最もできる良い教授、科学者であっても、このようなことを語ることはできません。なぜならば、この全ては人類の知識からきたものではないからです。古今東西の全ての本を調べても、見つけることができないのです。修煉に言及した本も、曖昧ではっきりしておらず、真機を教えず、修煉を指導することができません。修煉の本当の全てを本当に話したのは、今回の人類文明の時期に数えるほどの人しかいませんでした。しかし、彼らと背比べしているというわけではなく、わたしもそうしたくありません。しかし、わたしが皆さんに教えたのは、確かに皆さんが永遠に二度と聞くことのできないものです。(長時間の拍手)

人間の生命は長くありませんが、道は自分で歩むものです。どのように自分の生命の道を歩むかについては、人間自分で決めるものであり、誰も他の人を強制していません。在席の人がこれは良いものだと思っているのは、彼ら自身が良いと感じ修煉しているのです。ですから、全ての人には本当に自分が何のために生きているのか、誰のために生きているのかについて考えるべきです。機縁とすれ違ったら、それは永遠に後悔しても取り戻せません。今日はどんな形でここに入ったにしても、それはあなたが法を得るように導いてくれた方式であるかもしれません。(拍手)

わたし李洪志はこのことを行っていますが、わたしは人のために責任を負い、社会のために責任を負うことについてよく考えてから、行ったのです。もし社会に、人々に申し訳ないことであれば、わたしは決してこのことを行いませんし、今日のようにこれほど多くの人々が学びに来ることもありません。事実も証明したように、わたしは社会に厄介なことをもたらすことなく、かえって多くの正しくないことはわたしと大法の前で、その正しくないところが曝け出されました。そのため、これらの正しくないものは大法とわたしに反対するようになりました。これはわたしの責任ではありません。わたしが人々に良く行うようにと教えていますが、これは決して間違っていないです。人々に更によく行うようにと教えていますが、これも間違っていないです。まさにわたしと学習者達があまりに正しく行ったから、全ての正しくないものとあまり正しくないものは、心のバランスを失いました。

確かに、人々に良い人になってもらうことが非常に難しいとわたしは言いました。表面形式からある人を変えるのではなく、人の心が本当に動いたらやっとな変わります。このような改変はどんな力量をもっていても変えることのできないことです。(拍手) 人々にまだ佛性があると見え、人類社会がいくら腐敗堕落しても、人間にはまだ善の念があると見て、このことをしました。

わたしが確かにできたことと事実も証明しました。今日の大法弟子が大法の中で精進し、しかも絶えず自分の次元を向上させているのを見て、わたしにとって、これは最大の喜びです。社会がどのようにわたしを見ているのかということに至っては、わたしと大法が正しく歩んでいきさえすれば、学習者が正しく行いさえすれば、いくらの誤解があっても、変わると思います。(拍手) わたし達を理解しない人、攻撃した人は皆、同じことを言っています。「あなた達がそこまでよく行えるのでしょうか？ 全く不可

能です。」つまり人類にまだ良い人が存在していると彼らは信じていません。それなら、行動をもって見せます！！！（拍手）

本当の実情がわかっておらずわたし達に反対だった人は、わたしが思うには、わたし達に対する理解がまだ足りないからだと思います。わたし達は彼らを理解させ、認識させればよいのですが、どんな方法でもよいのです。正常なルートから来たにしても、そうではないにしても、わたし達は門戸を広く開き、知りたいことを分からせ、見たいことを見させます。何か知りたいことがあれば、意識的に大法を破壊しようとしている場合でない限り、どうぞ調べてください。もし本当に問題があれば、わたし達のところは浄土ではなくなります。このようなことをさせる勇気があるというのは、わたし達がここまでできるからです。わたし達のところは本当の浄土です！！（拍手）

わたし達は宗教ではなく、ましてや邪教ではありません。学習者達はただ修煉しています。圓滿成就できない人も常人社会で良い人として振舞うことができます。これほど多くの人が社会でこのような働きをしているため、どこの国においても、有益なものなのです。社会を安定させ、人心を善に向かわせることができます。将来どこの国も大法を歓迎すると思います。ですから、わたしと学習者にとっては、意識的に常人社会のために何かを行おうとしているではありません。わたし李洪志は前から話していたのですが、私は常人社会のために何かを行おうとしていませんが、わたしが行ったことは必ず常人社会に有益でなければなりません。わたしは常人社会のために何かを行いたいのではなく、ただこれらの修煉者のために責任を負いたいだけです。当然更に多くの人が大法を学べば、彼らが社会で果たした作用は必ず社会に有益なのです。彼らは非常に大きな場を形成し、大きな集団を形成し、社会全体の道徳が元に戻って向上するように導くに違いありません。

何故これほど多くの人がこの法を学んでいるのだろうか？と多くの記者、多くの人々は不可解に思っていますが、今日在席した人々は皆、目にしたと思います。何故でしょうか？ここは人々に正しい道を、しかも本当の良い人になるようにと教えているからです。ここには社会のでたらめな汚いものがなく、全ての正しくないものを浄化し、他人にも社会にも有益な人、更に圓滿成就するという基準に到達するような人になろうとしています。わたし達はお金を取らず、人々を率いて悪いことをせず、政治にも参与しないから、多くの人々を引きつけました。人類にまだ良い人がいると信じない人はこのことを過小評価したのです。（拍手）

わたしはわたし個人を宣伝したくないので、できるだけマスコミの取材に応じないようにしています。大法をまだ理解していない人が取材しようと思えば、多くの学習者はあなたに教えてあげられるでしょう。もしどうしてもわたしに会おうとしており、大法をまだ理解しておらず、法輪功とは何かを聞こうとすれば、わたしはあなたに会いませぬ。まずわたしの本を読んで、わたし達を調べてから、会ったほうが良いと思います。

皆さんもご存知のように、二言三言でこのことを説明しようとしても無理です。こ

れが常人のことではないから、わたし達が分かっていない記者は断片的な内容を取り出し、自分の観念をもって物事を拡大し、想像し、論じているのです。このようなことが二度と起きてほしくはありません。なぜなら、学習者達がよい人になろうとしているのに、邪だと言われ、これはあまりに不公平なことであり、学習者をひどく傷つけたのです。(拍手) 皆さんの報道はあまりに乖離してしまったのです。ここでは多く話したくありませんが、私の大法弟子ができるだけ速く精進し、着実に修煉することによって、一日も早く圓滿成就できるように望んでおります。(長時間の拍手)
ありがとうございました！